

平成 21 年度
神奈川県立体育センター研究報告書

スポーツ指導者の質と水準に関する
観点別評価基準の改善と精選

～スポーツ指導振り返りシート「かながわスタンダード」の作成～

神奈川県立体育センター
指導研究部 スポーツ情報室

目 次

テーマ設定理由	・・・ 1
目的	・・・ 1
文献研究	・・・ 1
内容及び方法	・・・ 3
経過（結果）	
1 ワーキンググループの結成	・・・ 3
2 第1回ワーキングの開催	・・・ 4
3 観点別評価基準の再カテゴライズと項目の精選	・・・ 4
4 スポーツ指導を受けている人を対象とした調査票の作成	・・・ 5
5 アンケート調査の概要	・・・ 5
6 第2回ワーキングの開催	・・・ 10
7 観点別評価基準の改訂	・・・ 11
考察	・・・ 11
まとめ	・・・ 12
今後の課題	・・・ 13
謝辞	・・・ 13
引用及び参考文献	・・・ 13
資料 1	スポーツ指導者に望まれる基礎・基本とは
資料 2	指導者の自己評価結果による因子分析
資料 3	信頼性分析の結果
資料 4	スポーツ指導者の評価基準作成のためのアンケート調査（調査票）
資料 5	指導を受けている人の指導者評価による因子分析
資料 6	第2回ワーキング資料（評価基準案）
資料 7	第2回ワーキング資料（研究の流れ・関係する文献より）
資料 8	第2回ワーキングでの意見を踏まえた修正案
資料 9	スポーツ指導者のための振り返りシート「かながわスタンダード」
資料 10	価値観別因子分析の結果
資料 11	評価基準に関する指導を受けている人の自由意見

スポーツ指導者の質と水準に関する観点別評価基準の改善と精選

～スポーツ指導振り返りシート「かながわスタンダード」の作成～

スポーツ情報室 田所克哉 江守哲也 土井義浩 落隆久
横浜国立大学 教育人間科学部 海老原修

【テーマ設定理由】

多様化する県民のスポーツニーズに対応するため、高度な専門的知識と実践的指導力を兼ね備えたスポーツ指導者の育成は不可欠である。

しかし現状では、スポーツ指導者が最低限身に付けておくべき基礎・基本の知識・技能等について、統一した指標が示されていない。そのため、スポーツ指導者が自ら有する知識や指導技術等、すなわち①実践的な指導力、②専門的な知識、③両者が有機的に結合する応答可能性（レスポンスビリティ）を振り返り、どのような領域のどのような力量が充足しているのか、また不足しているのかを具体的に判断できない現状にある。

こうした中、平成 20 年度に、スポーツ指導者を対象に最低限身に付けておくべき、基礎・基本の知識・技能等を収集・体系化すると共に、その水準を自己評価できる観点別評価基準¹⁾を試論した。しかしながら、類似した項目があったり、1つの項目に複数の問いかけが含まれているなどの問題があり、本質的な質問の意味を精選し、日常的な言葉に変換する必要があった。そこで試論が多くのスポーツ指導者に活用されるためには、さらなる改善と精選、及びスポーツ指導を受ける人の意見を反映させる必要があると考えた。

以上から、本年度は、昨年度作成した観点別評価基準を、様々な分野のスポーツ指導者の意見を踏まえ、改善と精選をした後、指導を受ける側からも見解を求め、より実際的な基準を作成することとした。そして今後、この評価基準が、スポーツ指導の振り返りに活用され、指導者が実践的な指導力の向上を図り、指導を受ける人のさまざまな要望に、臨機応変に即答できる能力を備えるとともに、本体育センターにおいては、研修機関として、作成した評価基準及びその評価結果の活用により、よりの確なスポーツ指導者研修の構築に寄与すると考え、本テーマを設定した。

【目的】

スポーツ指導の効果的な振り返りや、スポーツ指導者研修等の構築に寄与するスポーツ指導者の観点別評価基準を作成する。

【文献研究】

本研究は、横浜スタンダード（小学校教員としての資質・能力の観点別評価基準）²⁾を元に昨年度に作成したスポーツ指導者の観点別評価基準¹⁾の改善・精選を図るため、次に挙げる文献等の評価基準の検討の際、参考にした。

(財)日本体育協会発行の「21世紀のスポーツ指導者 望ましいスポーツ指導者とは」³⁾には、求められるスポーツ指導者の項に、次の内容が書かれている。

・スポーツ指導者は、「スポーツの楽しさ」を自ら表現できるモデルとなり、言動で見本を示す必要があります。
・スポーツ指導者がプレイヤーとお互いに尊敬の関係を築き、指導することによって、プレイヤーに伝えることができるものなのです。
・単に技術・戦術の指導に優れているだけではプレイヤーに信頼される指導者にはなれません。
・指導者の人格がプレイヤーに尊敬されてこそ信頼を得られるのです。
・相互尊敬の関係を築くためには、スポーツ医・科学に裏付けられた知識とコミュニケーションスキルを身につけ、プレイヤーの立場に立った指導をする・・・
・スポーツマンシップとフェアプレイに代表されるスポーツのマナー、エチケットの手本となるような態度・行動が重要となります。
・相手のニーズや要望にあわせ、同じことを伝えるにも、相手に応じて話し方を工夫するなど、個々人の特徴に対応した一対一のコミュニケーションを図ることが求められます。
・スポーツ指導者は、多様なニーズに的確に対応するため、常に自己研鑽を図り、自ら成長・発展し、周囲から尊敬・信頼される人間であることが求められています。

また、スポーツ指導者のコンピテンシー（能力）の研究としては、笹山・中西⁴⁾の「スポーツ指導者のコンピテンシーの構造」があり、コンピテンシーを、「カリキュラムによってその開発・向上が可能である専門的な能力」と説明している。そして笹山・中西は、スポーツ指導者のコンピテンシーを「スポーツ経営力」、「スポーツに関する知識」、「実技・指導能力」、「コミュニケーション能力」の4つの次元から構成されていると捉え、質問紙調査を行い、地域スポーツ指導者のコンピテンシーを「健康・体力科学に関する知識・能力」、「運動者理解能力」、「スポーツ経営能力」、「情報収集・活用能力」、「パブリックとの関係づくり能力」、「指導理論・実技能力」、「スポーツ文化に関する知識・能力」、「状況適応能力」の8因子、商業スポーツ施設指導者のコンピテンシーを「指導理論・実技能力」、「情報収集・活用能力」、「運動生化学に関する知識・能力」、「スポーツ栄養学・医学・内科学に関する知識・能力」、「スポーツ事業の企画・運営能力」、「コミュニケーション能力」、「スポーツ行政に関する知識・能力」、「安全指導に関する知識」の8因子にまとめている。

そして、富田⁵⁾は、「首都圏の地域スポーツ指導者に求められる職務遂行能力に関する研究」において、笹山・中西の作成した4次元36項目の質問により調査を実施し、コンピテンシーを「社会的動向・情報収集分析能力」、「身体・健康科学に関する知識」、「スポーツルール・リスク対応能力」、「スポーツ経営能力」、「コミュニケーション能力」の5因子にまとめている。

一方、アメリカ合衆国においては、National Association for Sport and Physical Education

(NASPE)⁶⁾が、National Standards for Sport Coaches, 2nd Edition をホームページで公開しており、「Philosophy and Ethics」、「Safety and Injury Prevention」、「Physical Conditioning」、「Growth and Development」、「Teaching and Communication」、「Sport Skills and Tactics」、「Organization and Administration」、「Evaluation」の8つの領域を示している。

さらに、インストラクターのコンピテンシーとして、James D. Kleinら⁷⁾は、「プロフェッショナルとしての基礎」、「企画と準備」、「方法と戦略」、「評価」、「マネジメント」の5つの領域を示している。

以上のように海外では、一足先に指導者の明確な基準が作られているが、わが国においては、指導者論が語られても、評価基準として明確に示されたケースは今までにないようである。

【内容及び方法】

1 研究期間

平成21年4月～平成22年3月

2 手順

- (1) 評価基準検討のためのワーキンググループ結成
- (2) 昨年度作成した観点別評価基準のワーキンググループによる検討
- (3) スポーツ指導を受けている人を対象としたアンケート調査の実施
- (4) アンケート調査を踏まえた観点別評価基準のワーキンググループによる検討
- (5) 観点別評価基準の改訂

【経過（結果）】

1 ワーキンググループの結成

様々な分野のスポーツ指導者に協力を依頼した。

表1 ワーキングのメンバー

no	名前	所属等
1	熊谷 孝一	横浜YMCAスポーツ専門学校校長
2	半谷 真一	特定非営利活動法人FCゴールクラブマネジャー
3	加藤 保房	神奈川県スポーツ指導者連絡協議会会長
4	高野 麻里	大和市立光丘中学校教諭
5	内野 慎吾	神奈川県障害者スポーツ指導者協議会会長
6	海老原 修	横浜国立大学教育人間科学部教授
7	佐野 朗子	神奈川県立体育センター生涯スポーツ推進室長兼スポーツ情報室長

※ 指導対象者などが偏らないようなメンバー構成とし、神奈川県立体育センター指導研究部スポーツ情報室を事務局とした。

2 第1回ワーキングの開催

- (1) 日時 平成21年8月25日(火曜日)16時から18時
 (2) 場所 神奈川県立体育センター 第1会議室
 (3) 内容

ア 重要項目の検討

平成20年度に作成した観点別評価基準の項目(50項目 資料1参照)の精選に向けて残すべき重要な項目について検討し、次の項目があがった。

表2 残すべき重要項目

カテゴリー	項目	内容
基本的素養	Q5<実践的指導力の向上>	企画力・計画力・指導力を自己評価し、他の指導者の実践的指導や事例を通して、自らの実践的指導力の向上を図る。
知識・理解	Q7<基礎的な知識・技能>	指導対象者に身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能の目標や内容を理解する。
指導③評価	Q30<目標に基づいた評価>	指導対象者に身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能の到達目標基準に基づき、適切に評価する。
指導④ 観察・分析	Q39<活動記録>	明瞭な活動記録の取り方がわかり、整理・記録する。
指導現場の 経営・運営	Q45<いじめ等への対応>	いじめ等の問題を理解し、即時的かつ効果的に対応する。

イ その他

「カテゴリーの再検討が必要ではないか」という指摘あり。

3 観点別評価基準の再カテゴリーと項目の精選

- (1) 平成20年度にスポーツ指導者を対象に実施したアンケート調査¹⁾の結果(観点別評価基準による自己評価(3段階))を用いて、因子分析(主因子法、固有値1以上の値についてバリマックス回転)した。

※ 因子分析とは測定された多数の変数の相関関係に基づいて、直接測定できない潜在因子を見いだす手法である。

- (2) 因子分析の結果、因子負荷が1つの因子について0.4以上で、かつ2因子にまたがって0.4以上の負荷を示さない37項目を選出し、9つの因子が抽出された。(資料2参照)
 (3) 因子毎に3項目以内になるように次の点を踏まえ精選した。

ア ワーキングにおいて重要とされた表2の5つを残す項目とした。

※ 1つの項目Q45<いじめ等への対応>は、因子負荷が0.4未満、他の4つの項目については因子負荷が0.4以上であった。

イ カテゴリー内に4つ以上の項目がある場合は、信頼性分析により、関連の少ない3項目(クロンバックの α 係数が低い組合せの3項目)に精選した。(資料3参照)

ウ 9つの因子には次のように命名した。

- 第1因子：対人的指導力
 第2因子：指導目標・計画
 第3因子：人間性

第4因子：知識・理解

第5因子：マネジメント

第6因子：要支援者への対応

第7因子：関わり方

第8因子：創造性

第9因子：安全管理

※ 項目Q45<いじめ等への対応>は、内容を考え、「第6因子：要支援者への対応」の項目とした。

エ 最終的に、23項目（9カテゴリ）に精選した。

4 スポーツ指導を受けている人を対象とした調査票の作成

(1) 観点別評価基準の項目（質）及び水準が、よりわかりやすい表現になるようワーキングの事務局で検討し、調査票の案を作成した。

(2) 調査票の案についてワーキングの委員に意見を聴取した。

(3) ワーキングの委員の意見を踏まえ、調査票を完成させた。（資料4参照）

5 アンケート調査の概要

(1) 対象：スポーツ指導を継続的に受けている成人 750名

ア 総合型地域スポーツクラブの成人会員 375人

県内総合型地域スポーツクラブ 15クラブ

イ 民間のスポーツクラブの成人会員 375人

Aスポーツクラブ

Bスポーツクラブ

(2) 時期 平成21年10月～11月

(3) 方法

各クラブ代表者が、対象者へ調査票を配付・回収し、郵送により体育センターに返送。

※ 回答済調査票は、封筒に入れ、封をした状態で回収した。

(4) 回収結果 有効回答率は54.1%であった。

表3 回収結果

	標本数	有効回答数	有効回答率
総合型地域スポーツクラブ	375	208	55.5%
民間のスポーツクラブ	375	198	52.8%
合計	750	406	54.1%

(5) 回答者の属性

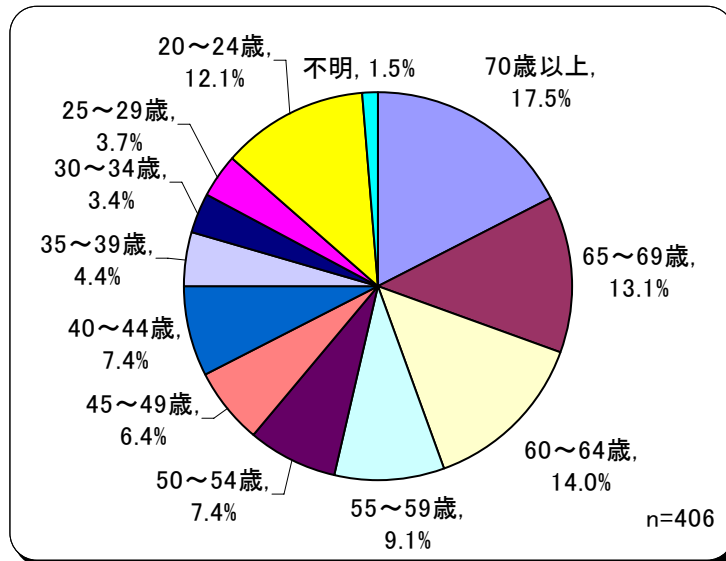


図1 回答者の年代

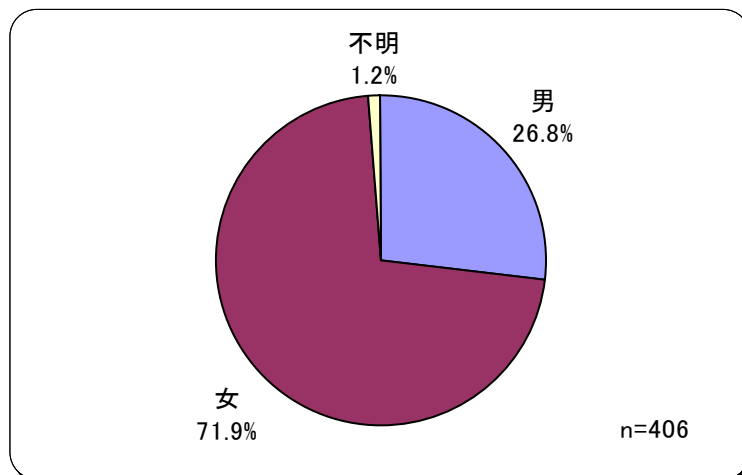


図2 回答者の性別

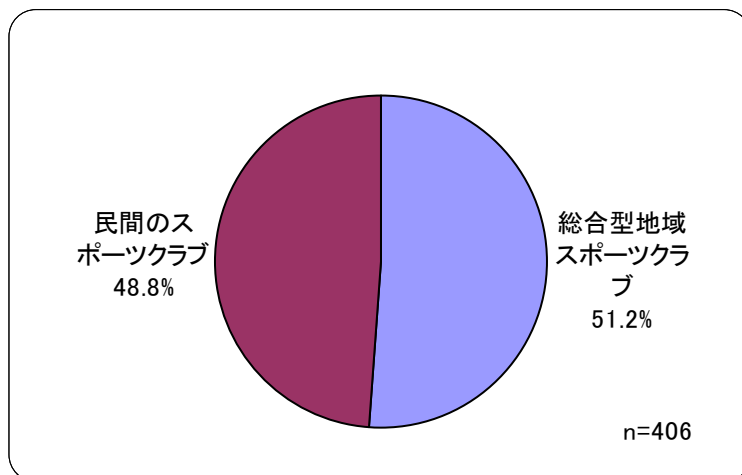


図3 指導を受けている講座（教室）の主催者

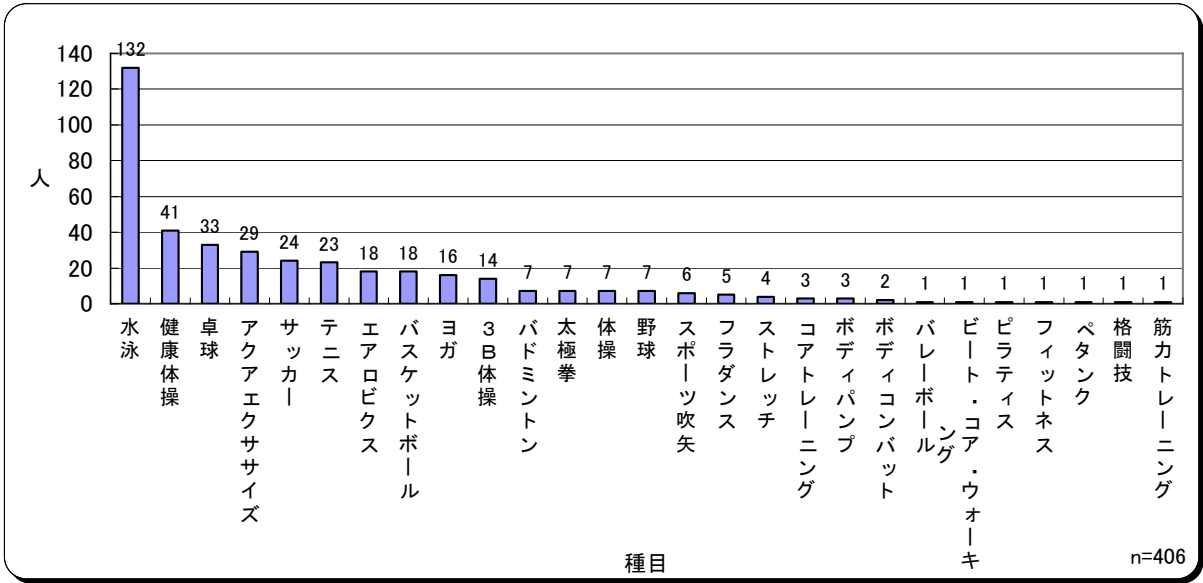


図4 指導を受けている種目

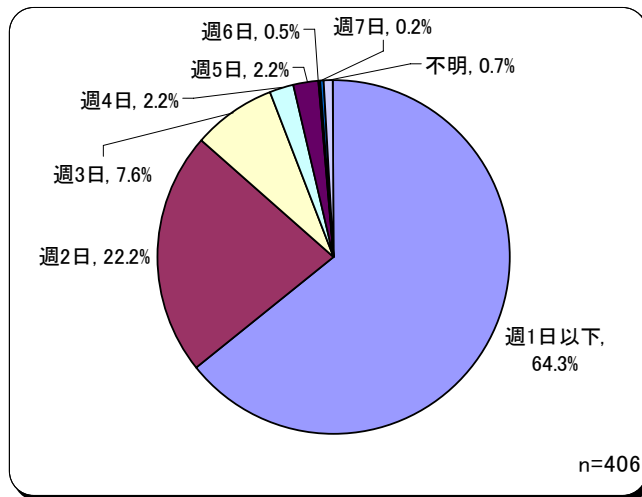


図5 指導を受けている頻度

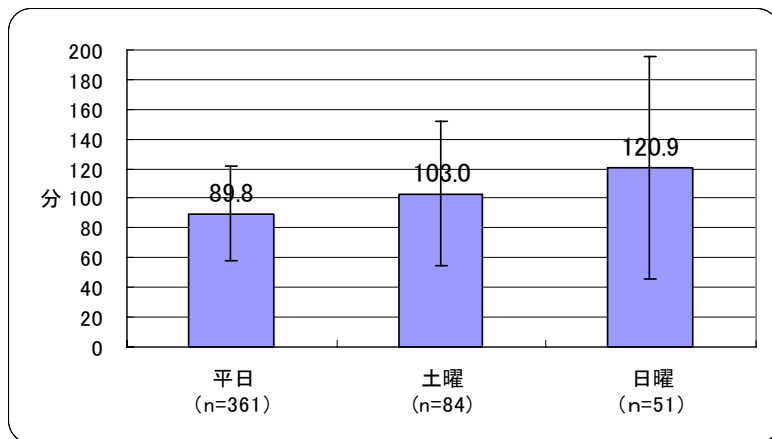


図6 1回あたりの指導を受けている平均時間

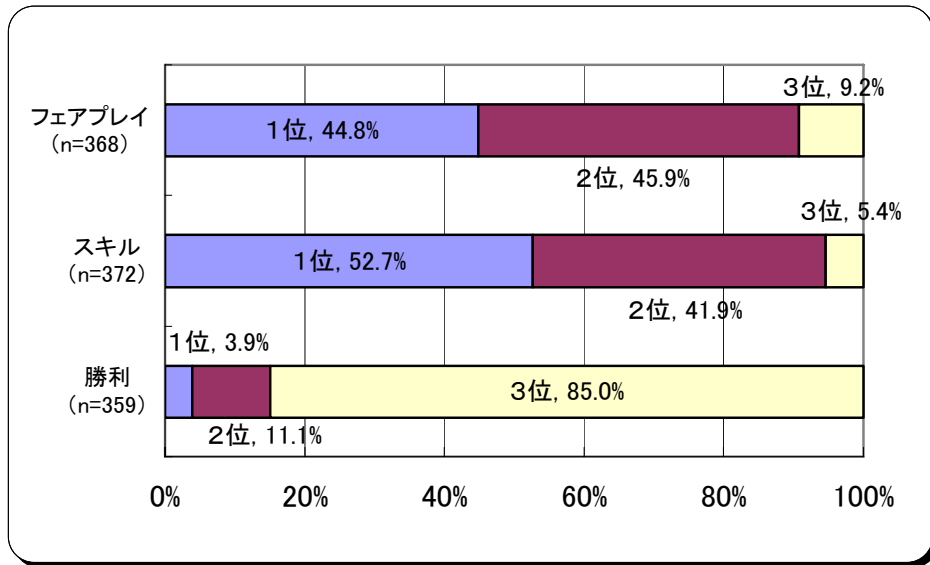


図7 スポーツを実施する際、重要と考えていること

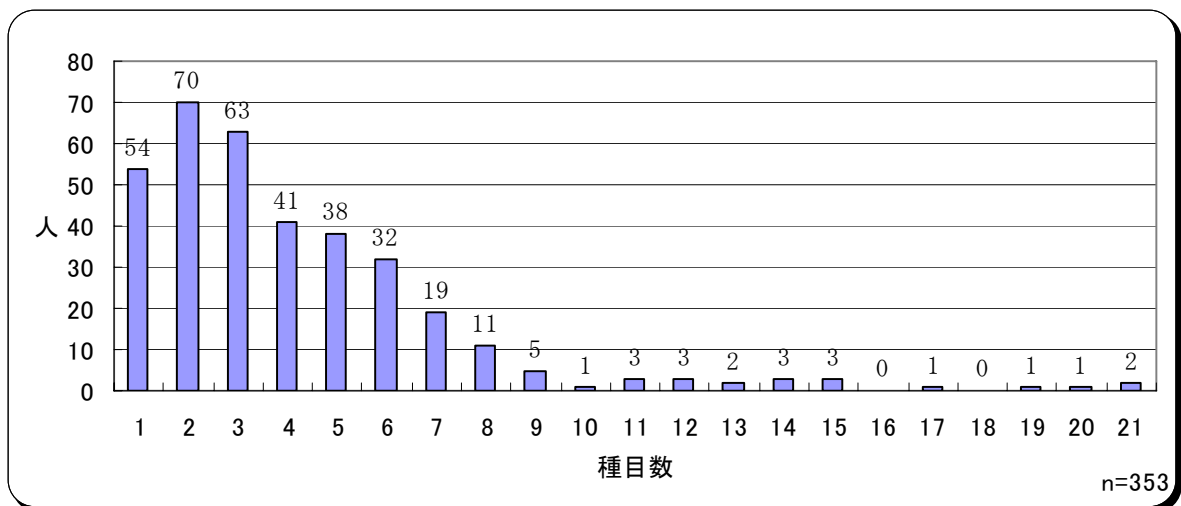


図8 過去1年間の運動・スポーツ種目数

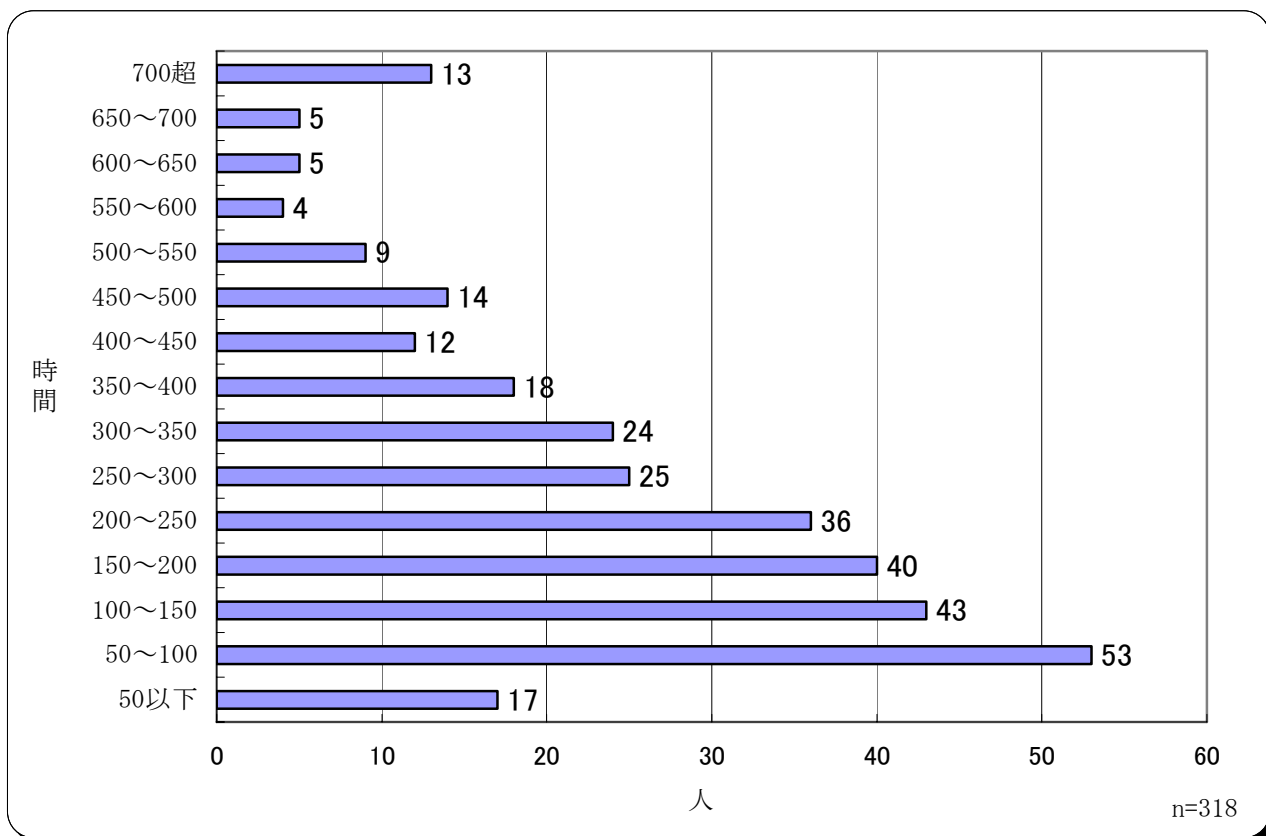


図9 過去1年間にたくさん行った運動・スポーツ上位5種目の合計時間

図1～9より、回答者の年代は60歳以上の方が約45%と多く、性別は女性が約72%と多かった。指導を受けている運動・スポーツの種目は、水泳が132名（約33%）と多いほかは、多岐にわたっていた。指導を受けている講座（教室）の主催者は、総合型地域スポーツクラブが約51%、民間のスポーツクラブが約49%とほぼ1対1の割合であった。指導を受ける頻度は、週1日以下が約64%と最も多く、指導を受ける時間（回答のあった平日、土曜日、日曜日の3つの質問毎に集計）は、平日で約90分、土曜日で約100分、日曜日で約120分であった。また、スポーツを実施する際、重要と考えていること（1位として回答した項目）は、フェアプレーが約45%、スキルが約53%、勝利が約4%であり、勝利志向の者が、フェアプレーやスキル志向の者に比べて極端に少なかった。一方、回答者は過去1年間に行った運動・スポーツが2種目の者が70名（約20%）、3種目の者が63名（約18%）と、指導を受けている種目以外の運動・スポーツも実施している者が多く、過去1年間にたくさん行った運動・スポーツ上位5種目の合計時間は、50時間を超えて、100時間以内が多く、1日あたりの平均時間を計算すると、43分（標準偏差39分）であった。

(6) 指導を受けているスポーツ指導者の評価結果について

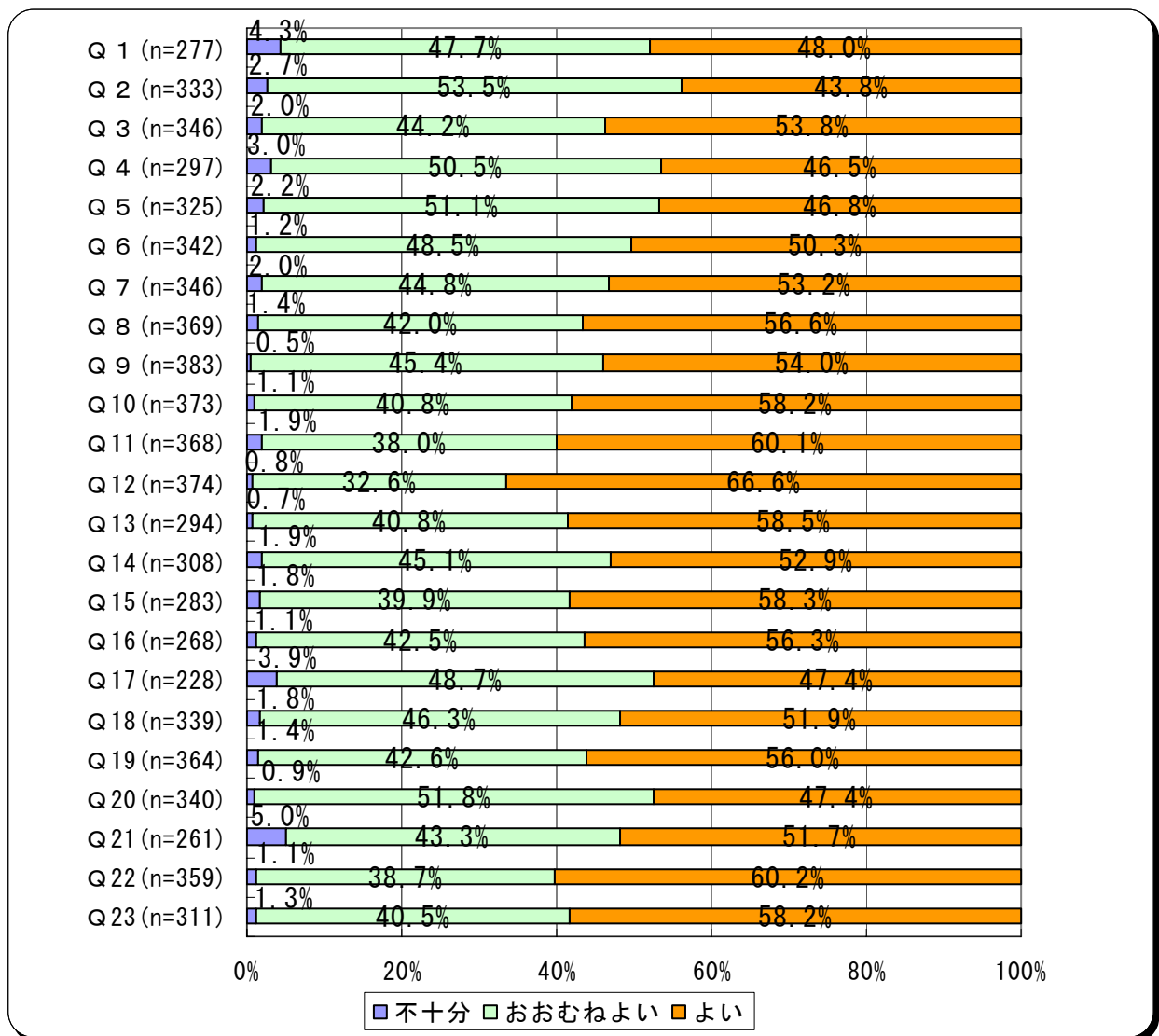


図 10 評価基準による指導者の評価

図 10 より、指導者に対する評価は、「よい」、「おおむねよい」がほとんどであり、「不十分」という評価は、どの項目も 5%以下であった。

(7) 指導を受けているスポーツ指導者の評価結果に基づく因子分析

観点別評価基準による指導者評価（3段階）を用いて、因子分析（主因子法、固有値 1 以上の値についてバリマックス回転）した。結果は、3つの因子が抽出されたが、作成した調査票の 9つのカテゴリー（因子）とは一致を見ない結果となった。（資料 5・資料 6 参照 ※資料 5 は因子負荷が高い順、資料 6 は調査票の順）

6 第 2 回ワーキングの開催

- (1) 日時 平成 22 年 2 月 16 日（火曜日）15 時～17 時
- (2) 場所 神奈川県立体育センター 第 1 会議室
- (3) 内容 事務局により作成した観点別評価基準案（資料 6 参照）について検討した。

※ 23 項目の改善と精選（資料 6 の作成）は、本年度作成した調査票の 9 つのカテゴリーを基本とし、本年度の調査結果（資料 6 因子分析）及び関係する文献等（資料 7）を参考に、項目の内容を吟味しながら行った。

<主な意見>

<ul style="list-style-type: none"> ・no10「倫理・哲学」は、資料 7 の全米スポーツ体育協会の作ったスタンダードの 1 番目にも「哲学と倫理」として載っており、私も指導者にとって必要だと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの領域に到達するノウハウを「マネジメント」といっているのではないかと。となると「マネジメント」は、タイトルとして存在しえないのではないかと。全米スポーツ体育協会のスタンダードで考えると「組織と管理」ではないかと。
<ul style="list-style-type: none"> ・「プロ意識」は、当たり前ではないかと。「哲学・倫理」や「コミュニケーション」に入っているのではないかと。（「プロ意識」の内容である）情報収集についても何についての情報を収集するのか明確でない。
<ul style="list-style-type: none"> ・「評価・分析」は、「分析・評価」と分析が先に来るのではないかと。評価は大事なので独立させてはどうか。全米スポーツ体育協会のスタンダードでも、横浜スタンダードでも独立している。
<ul style="list-style-type: none"> ・誰にとっても特別な支援は必要なことである。したがって、「特別支援」を 1 つの項目（タイトル）として頭出ししなくても良いと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・「創造性」が「教授能力」に変わりわかりにくくなったかもしれない。（項目や水準の）表現はもう一度全て見直した方がよい。
<ul style="list-style-type: none"> ・これ（評価基準）は、あくまでも基軸で良い。
<ul style="list-style-type: none"> ・表現がシンプルでいろんな理解を生んでも、それは覚悟の上で、望んだらどうか。形容詞や形容動詞をそいでいくことによって、言葉をシンプルにしていく方がよいのではないかと。ある程度、解釈に裁量がないとギスギスしたものになってしまう。

7 観点別評価基準の改訂

- (1) ワーキングでの意見を踏まえ、事務局で検討し、観点別評価基準案を再度作成した。
- (2) 案についてワーキングの委員に意見を聴取した。
- (3) ワーキングの委員の意見について再検討し（資料 8 参照）、観点別評価基準を改訂した。（資料 9 参照）

【考察】

本研究では、昨年度作成した 50 項目の内、残すべき項目についてワーキングで検討した。その後、指導者の自己評価結果（50 項目）を因子分析し、9 つの因子が抽出された後、ワーキングでの検討結果を踏まえ、信頼性分析により、9 カテゴリー 23 項目の評価基準を作成した。そして、その 23 項目により、スポーツの指導を受けている人に指導者の評価を行ってもらい、その評価結果を因子分析した結果が、資料 5・資料 10 である。（※資料 5 は因子負荷が高い順、資料 9 は調査票の順）資料 9 より指導者の自己評価と指導を受けている人による指導者評価では、因子構造が似ているとは言い難い。つまり、指導者と指導を受けている人では、評価のものさしの種類が一致しているとは言えないと考える。

次に指導を受けている人の価値感により評価のものさしに違いがないか検討するため、調査票（資料 4 参照）問 7 の「重要と考えること（フェアプレイ、スキル、勝利）」の回答によりグループ分けし、グループ毎の因子分析を試みた。（資料 10 参照 ※勝利重要視群は、サンプル数が少なく分析が行えなかった。）その結果、フェアプレイ重要視群では 5 つの因子が抽出され、その因子構造は、指導者の自己評価を元に作成した調査票の 9 つのカテゴリー（因子）との一致を見なかった。一方、スキル重要視群でも 5 つの因子が抽出されたが、因子 1 には、調査票のカテゴリー「人間性」、「知識・理解」、「マネジメント」、「要支援者への対応」が、因子 2 には、「対人的指導力」、「指導目標・計画」が、因子 4 には創造性が、因子 5 には安全管理がほぼ当てはまっており、調査票の 9 つのカテゴリー（因子）と因子構造が概ね一致していることがわかった。つまり、スキルの向上を重要視する人の指導者評価は、スポーツ指導者の自己評価と因子構造が似ており、両者は似た評価のものさしを持っていると考えられる。

以上のことから、指導者の認識する評価のものさしは、技能の向上を重要視する人たちとは似ているが、フェアプレイを重要視する人たちとは違いがある可能性が示唆された。

【まとめ】

本研究では、横浜スタンダード（小学校教員としての資質・能力の観点別評価基準）²⁾ を元に昨年度作成した 50 項目各 3 段階の評価基準を元に、10 項目各 3 段階の観点別評価基準を作成した。

そして、スポーツ指導を受けている人へのアンケート調査において、指導者評価をした 23 項目以外に必要な項目を聞いた自由記述を、作成した 10 項目の観点別評価基準にあてはめてみてみた一覧が、資料 11 である。複数の項目にあてはまる記述が多いが、いずれも 10 項目のどれかに当てはまっており、作成した評価基準が、スポーツ指導を受けている人の意向を概ね反映できていることが確認できた。

本研究により、スポーツ指導者には、「これが必要である」とひとまず、10 項目を示すことができた。このことは、スポーツ指導者及びスポーツ指導者を目指す人の資質の向上に役立つだけでなく、当センターのようなスポーツ指導者の研修機関における的確なスポーツ指導者研修の構築にも寄与できると考えている。

具体的には、指導者を目指す人には、10 項目を念頭に置いた学習、すでに指導を行っている人には、日頃の振り返り、研修機関においては、研修内容の検討に活用できると考えている。

その他にもスポーツ指導者養成機関における指導実習などにおいて、実習の監督者がこの観点別評価基準により評価し、フィードバックする指導や、指導者によっては、指導対象である人から、自分の指導を直接評価してもらう他者評価も可能となるであろう。

わが国のスポーツ振興において、スポーツ指導者の養成及び資質の向上は、大きな課題である。スポーツ振興法⁸⁾ 第 11 条には、指導者の充実について、「国及び地方公共団体は、スポーツの指導者の養成及びその資質の向上のため、講習会、研究集会等の開催その他の必要な措置を講ずるよう努めなければならない。」と記載されている。また、スポーツ振興基本計画⁹⁾ においても、質の高いスポーツ指導者の養成が必要である旨、明記されている。

そして、本県の神奈川スポーツ振興指針「アクティブかながわ・スポーツビジョン」¹⁰⁾ においても、システムプロジェクトとして、質の高い指導者の育成などについて記載されている。

当センターとしてはこのような課題に対し、従来から行っている研修会の開催やスポーツ情報提供事業等をこの観点別評価基準と有機的に結びつけ、指導者の資質の向上を支援していきたいと考えている。

【今後の課題】

本研究では、項目の改善と精選にあたり、スポーツ指導者へのアンケート調査とスポーツ指導を受けている人へのアンケート調査を実施した。その際、2回のアンケート調査における共通点は、勝利を重要視する人が、フェアプレイやスキルを重要視する人に比べて極端に少なかった点である。そこで、作成した観点別評価基準には、勝利を重要視する指導者や指導を受ける人の考えがあまり反映されておらず、今後は作成した観点別評価基準が、勝利を重要視する人にも当てはまるかどうかの確認も必要であろう。

また、観点別評価基準の50項目から10項目への精選により、表現が抽象的にならざるをえなかった。今後、10項目を領域と捉え、領域毎の具体的な項目の作成も必要であると考え。そして、スポーツ種目に応じた項目や、考察でも述べたとおり価値観の違う指導対象毎の項目、あるいは幼児や小学生、高齢者といった一般成人とは、体力も含め、多くの条件が明らかに違う対象者毎の項目、さらには、青少年期において多くの生徒がスポーツの指導を受ける学校教育としての運動部活動に特化した項目の作成も、有効な指導の振り返りにつながると考える

すなわち今後は、この10項目の観点別評価基準を基軸とし、それぞれの指導現場によりあてはまる基準の作成や、さらには今回作成した評価基準のバージョンアップが必要であると考え。

【謝辞】

本研究にあたり、調査に快く御協力いただきました県内の13の総合型地域スポーツクラブ及び民間の2つのスポーツクラブのスタッフの皆様、ならびにアンケートに御回答くださった各クラブ員の皆様に感謝いたします。

また、ワーキングにおいて貴重な御意見をたまわりました横浜YMCAスポーツ専門学校校長の熊谷孝一氏、特定非営利活動法人FCゴールクラブマネジャーの半谷真一氏、神奈川県スポーツ指導者連絡協議会会長の加藤保房氏、大和市立光丘中学校教諭の高野麻里氏、神奈川県障害者スポーツ指導者協議会会長の内野慎吾氏に感謝の意を表します。

さらに、統計手法についての御助言を賜りました日本女子体育大学準教授の齋藤隆志氏、並びに評価基準の英訳について御協力いただきました神奈川県立総合教育センターの専門研修課所員の方に感謝申し上げます。

【引用及び参考文献】

- 1) 神奈川県立体育センター 「スポーツ指導者の質と水準に関する観点別評価基準の開発」 平成20年度
- 2) 福田幸男監修 「小学校教員を目指す人のための 横浜スタンダード準拠 教育実習ノート」(株)東洋館出版社 2008年3月
- 3) (財)日本体育協会 「21世紀のスポーツ指導者 望ましいスポーツ指導者とは」
- 4) 笹山晋寛・中西純司 「スポーツ指導者のコンピテンシーの構造」 1998年度
- 5) 富田幸博 「首都圏の地域スポーツ指導者に求められる職務遂行能力に関する研究」 日本体育大学紀要 35巻2号 (2006) 159-172

- 6) National Association for Sport and Physical Education 「National Standards for Sport Coaches, 2nd Edition」 <http://www.aahperd.org/naspe/standards/nationalStandards/SportCoaches.cfm>
(2010年3月公開中)
- 7) James D. Klein J. Michael Spector Barbara Grabowski Ileana de la Teja 「Instructor Competencies」 2003年
- 8) スポーツ振興法 昭和三十六年六月十六日法律第百四十一号 最終改正：平成十九年六月二七日法律第九七号
- 9) スポーツ振興基本計画 平成12年9月に文部大臣告示として策定。平成18年9月に計画を改定
- 10) 神奈川県スポーツ振興指針「アクティブかながわ・スポーツビジョン」 平成16年12月に策定 平成20年3月に改訂

スポーツ指導者に望まれる基礎・基本とは

スポーツ指導者のみなさん！！

県立体育センターでは、皆さんの日ごろの指導に役立てていただくために、スポーツ指導者が身に付けておくことが望ましいと思われる基礎・基本等の知識を自己評価できる観点別評価基準を開発しました。各項目について「よい、おおむねよい、不十分」の3段階評価をすることにより、ご自身の知識等を振り返り、今後の自己研鑽の一助としていただければ幸いです。今回は、その概略を簡単にご紹介します。

皆さんの日ごろの指導の振り返りに、ぜひご活用ください！！

1 基本的素養

<可能性への期待>

参加者を尊重し、1人ひとりの可能性に期待する。

<期待される人間性>

望ましい価値、態度、行動を示し、促進できる。

<応答的な人間関係>

指導場面で、良好かつ建設的な人間関係を築く。

<協力的な人間関係>

仲間と良好な人間関係を築き、さまざまな場で貢献する。

<実践的指導力の向上>

指導を自己評価し、仲間の指導等から学ぶことを通して、自らの実践的指導力の向上をめざす。

<地域の役割理解>

地域の役割、文化を理解し、良識的に対応する。

2 知識・理解

<基礎的な知識・技能>

基礎・基本の知識・技能について、指導する目標や内容を理解する。

<系統的な指導計画の作成>

基礎・基本の知識・技能について、順序立った指導計画の作成について理解する。

<知識・用具の理解と分析>

技術の習得、向上の基礎となる練習方法・用具の工夫・分析の方法を理解する。

<指導計画作成・指導方法>

指導計画や指導の方法を理解する。

<評価の理解>

評価について理解する。

<ICT使用>

指導におけるICT使用について理解する。

(ICT=情報通信技術)

<基礎条件・発達>

既存知識や経験、達成状況、発達について理解する。

<要支援者への理解>

支援を必要とする参加者（障害者等）を理解する。

<スポーツマンシップの指導>

スポーツマンシップの価値、規範について理解する。

3 指導① 目標・計画

<指導目標の設定>

基礎・基本の知識・技能を踏まえ、実態に応じた適切な指導目標を設定する。

<指導計画・日案の作成>

段階、興味・関心などを考慮した指導計画と1回単位の指導案を立案する。

<指導計画・日案の修正>

到達状況に応じて指導計画、指導案を修正する。

<知識・用具の準備・開発>

技術の習得、向上の基礎となる練習方法や用具を選択したり、開発したりする。

<指導計画の作成>

見通しをもった短期・長期の指導計画を立案する。

<体験指導の計画>

遠征・合宿等を想定した活動計画を立案する。

4 指導② 実施

<指導の実習>

目標に沿った適切な指導を実施する。

<個別指導>

段階、興味・関心に応じた適切な時期に個別指導を活用する。

<グループ指導>

段階、興味・関心に応じて、



適切な時期にグループ指導を活用する。

<指導時間の有効活用>

指導目標の達成をめざし、有効に時間を使う。

<練習方法や用具の選択>

安全で有効な練習方法や用具を選択し、管理する。

<発展的・補足的な課題>

実態に応じた課題により、補充・発展的な習得を促す。

5 指導③ 評価

<評価方法とその活用>

さまざまな見取りと評価方法を適切に使用し、指導計画と指導の改善に生かす。

<即時的な評価・フィードバック>

指導現場での適切な評価をすばやくフィードバックする。

<目標に基づいた評価>

指導目標に基づき、到達状況を適切に評価する。

<活動状況の適切な把握・記録>

活動状況・到達状況を的確に把握し、記録する。

6 指導④ 観察・分析

<話し方・聞き方・指名の仕方>

活動に有効な話し方、指名の仕方等について、他者の指導を観察する。

<プリント等の活用・記録ノート指導>

活動に有効なプリントや記録ノートの活用について、他者の指導を観察する。

<技能、用具の活用・利用>

指導内容に適した練習方法や用具の選択について、他者の指導を観察し、指導に生かす。

<指導者と参加者の関わり>

指導現場での参加者との関わり合い等について、他者の指導を観察する。

<個への支援>

参加者の状況に応じた支援の仕方・対応について、他者の指導を観察する。

<指導評価>

課題解決のための効果的な指導評価について、他者の指導を観察する。

<マナー・約束>

マナーや約束ごとの内容と、その意図を理解し、他者の指導を観察する。

<活動記録>

わかりやすい記録の方法を知り、活動を記録する。

<活動分析>

次の指導計画のために、活動結果を振り返り分析する。

7 指導現場の経営・運営

<参加者との良好な信頼関係>

さまざまな関わりを通して参加者を理解し、良好な信頼関係をつくる。

<指導環境の整備>

活動を促進する環境整備と指導時間を有効に利用する。

<公正な指導環境風土の構築>

公正とお互いの尊厳を促す指導環境を設定する。

<規律の確立・維持>

互いの行動についての規律をつくり、それを維持する。

<いじめ・不登校等への対応>

いじめなど、欠席の原因を理解し、すばやく効果的に対応する。

<要支援者への対応>

指導現場における支援を要する参加者（障害者等）を理解し対応する。

8 組織理解と運営への協力

<組織・運営の理解・協力>

組織・運営を理解し、協力、参加する。

<組織における役割分担の理解>

組織における役割分担と、その機能を理解する。

<安全性・事故防止への理解>

安全な活動への配慮と、指導中の事故防止（指導環境等の工夫）に努める。

<事故対応等への理解>

活動における事故（参加者の急変等）対応について理解し、すばやく効果的に対応する。

県立体育センターは、県民の皆さんのスポーツ活動の推進と、現場で活躍するスポーツ指導者の皆さんの指導環境の向上を目指し、今回開発した観点別評価基準の活用の方策と、基準のさらなる改善へ向け取り組めます。

調査にご協力いただいた皆さん、どうもありがとうございました。今後とも、忌憚の無いご意見をお聞かせください。



項目 no	タイトル	内容	因子 1	因子 2	因子 3	因子 4	因子 5	因子 6	因子 7	因子 8	因子 9	ワー キング での 意見	項目 no	タイトル	内容	因子 1	因子 2	因子 3	因子 4	因子 5	因子 6	因子 7	因子 8	因子 9	ワー キング での 意見
37	指導評価	課題解決のためにどのように指導評価を効果的に 行っているかについて、指導を観察する。	0.635										47	組織・運営の理解・ 協力	組織・運営を理解し、協力、参加する。					0.726					
35	指導者と参加者の 関わり	目標達成の観点から学びあいの場における指導者 と参加者同士の関わり合いについて指導を観察す る。	0.597										48	組織における役割 分担の理解	組織における役割分担と、その機能を理解する。					0.680					
40	活動分析	活動結果の分析から次時の指導に向けた計画実践 への指針を得る。	0.579										14	要支援者への理解	支援を必要とする参加者(障害者等)について理解 する。					0.702					
39	活動記録	明瞭な活動記録の取り方が分かり整理・記録する。	0.575									重要	46	要支援者への対応	指導現場の中での支援を要する参加者(障害者等) を理解し対応する。					0.690					
36	個への支援	指導者による参加者の活動状況に応じた支援の仕 方・対応について、指導を観察する。	0.558										44	規律の確立・維持	互いの行動に関する規律をつくり、その枠組みを確 立し、それを維持する。						0.472				
29	即時的な評価・ フィードバック	指導における即時的かつ適切な評価とフィードバック を行う。	0.524										41	参加者との良好な 信頼関係	参加者との多様な関わりを通して参加者を理解し、 良好な信頼関係をつくる。						0.409				
28	評価方法とその活 用	さまざまな見取りと評価方法を適切に使用し、それを 指導計画と指導の改善に生かす。	0.520										19	知識・用具の準備・ 開発	目標到達のために必要な技術の習得、技能の向上 の基礎となる練習方法や用具を選択したり、開発し たりする。							0.428			
33	プリント等の活用・ 記録ノート指導	プリント・記載方法の工夫等、記録ノート指導などが 参加者の活動にどのように有効に作用しているか、 他者の指導を観察する。	0.515										21	体験指導の計画	体験指導(遠征・合宿等)を想定しての活動計画を立 案する。								0.400		
34	技能、用具の活 用・利用	指導内容に適した練習方法や用具の活用の仕方につ いて他者の指導を観察し、効果的な扱いを指導に 生かす。	0.494										49	安全性・事故防止 への理解	活動における安全性への配慮について理解し、指導 中の事故防止(指導環境等の工夫)に努める。									0.639	
30	目標に基づいた評 価	身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能の到 達目標基準に基づき、参加者の到達状況を適切に 評価する。	0.493									重要	50	事故対応等への理 解	活動における事故(参加者の急変等)対応について 理解し、即時的かつ効果的に対応する。									0.488	
32	話し方・聞き方・指 名の仕方	話し方、聞き方、指名の仕方が活動にどのように 有効に作用しているか、指導を観察する。	0.492										45	いじめ・不登校等 への対応	いじめ、不登校等の問題を理解し、即時的かつ効果 的に対応する。										重要
31	活動状況の適切な 把握・記録	参加者の活動状況・到達状況を的確に把握し記録 する。	0.473										8	系統的な指導計画 の作成	身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能につ いて、系統的指導計画の作成について理解する。		0.413		0.454						
27	発展的・補足的な 課題	参加者の実態に応じた適切な課題を課し、補充・発 展的な習得を促進する。	0.429										38	マナー・約束	活動の場におけるマナーや約束ごとを知り、その意 図を理解して観察する。										
42	指導環境の整備	参加者の活動を促進する指導環境の整備と指導時 間の有効利用をする。	0.402										25	指導時間の有効活 用	指導目標の具現化をめざし、有効に時間を使う。										
17	指導計画・日案の 作成	参加者の段階、興味・関心などの多様性を考慮し て、年間(月間)指導計画と1回単位の指導案を立案 する。	0.673										26	練習方法や用具の 選択	安全でかつ有効な練習方法や用具を選択してそれ を使用し管理する。										
10	指導計画作成・指 導方法	指導計画や指導の方法を理解する。	0.551										15	スポーツマンシップ の指導	スポーツマンシップの価値、規範について理解する。										
20	指導計画の作成	見直しをもった短期・長期の指導計画を立案する。	0.523										24	グループ指導	習熟の程度や興味・関心に応じた多様な指導方法、 特にグループ指導を活用し、適切に実施する。										
18	指導計画・日案の 修正	参加者の到達状況に応じて指導計画、指導案を修 正する。	0.492										23	個別指導	習熟の程度や興味・関心に応じた多様な指導方法、 特に個別指導を活用し、適切に実施する。										
16	指導目標の設定	身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能を踏 まえて、参加者の実態に応じた適切な指導目標を設 定する。	0.440										11	評価の理解	評価について理解する。										
5	実践的指導力の向 上	企画力・計画力・指導力を自己評価し、指導者仲間 の実践的指導や事例から学ぶことを通じて、自らの 実践的指導力の向上を図る。			0.539							重要	1	可能性への期待	すべての参加者を人間として尊重し、一人ひとりの 持つ高い可能性を期待する。										
2	期待される人間性	指導者として、参加者に期待する望ましい価値、態 度、行動を示し、それを促進できる。			0.492								43	公正な指導環境風 土の構築	公正と互いの尊厳を促す指導の場における風土づく りを設定する。										
4	協力的な人間関係	指導者仲間と良好な人間関係を築き、実践・研究・ 協働の場で貢献する。			0.480								12	ICT使用	指導におけるICT使用について理解する。(ICT= Information Communication Technology)										
3	応答的な人間関係	参加者との良好かつ建設的な人間関係を築く。			0.469								22	指導の実習	目標に沿って適切に指導を実施する。										
6	地域の役割理解	地域の役割や文化を理解し、良識的かつ効果的に 対応する。			0.426								因子寄与 5.986 3.471 3.380 2.469 2.337 1.977 1.821 1.782 1.743												
7	基礎的な知識・技 能	身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能の目 標や内容を理解する。				0.542						重要	因子寄与率(%) 11.972 6.942 6.760 4.938 4.674 3.953 3.642 3.563 3.486												
13	基礎条件・発達	参加者の基礎条件(既存の知識・経験・達成度等)や 発達について理解する。				0.430							累積因子寄与率(%) 11.972 18.913 25.673 30.611 35.285 39.238 42.880 46.443 49.929												
9	知識・用具の理解 と分析	技術の習得、技能の向上の基礎となる練習方法の 工夫・用具の意味や分析の方法を理解する。				0.429							※ 主因子法 固有値1以上の値についてバリマックス回転 ※ 因子負荷0.4以上のみ表示												

因子1「対人的指導」

項目no		項目no30と39との関係	
		組合せ	α 係数
27		27-30-39	0.6970
28		28-30-39	0.7240
29		29-30-39	0.7162
30	重要(ワーキングでの意見)	31-30-39	0.7064
31		32-30-39	0.6650
32		33-30-39	0.7021
33		34-30-39	0.6975
34		35-30-39	0.6824
35		36-30-39	0.6793
36		37-30-39	0.7275
37		40-30-39	0.7311
39	重要(ワーキングでの意見)	42-30-39	0.6858
40			
42			

最小

因子2「指導目標・計画」

項目no	10通り					
	組合せ	α 係数	組合せ	α 係数	組合せ	α 係数
10	10-16-17	0.7353	16-17-18	0.7567	17-18-20	0.7899
16	10-16-18	0.7045	16-17-20	0.7737		
17	10-16-20	0.7403	16-18-20	0.7570		
18	10-17-18	0.7378				
20	10-17-20	0.7589				
	10-18-20	0.7368				

最小

因子3「人間性」

項目no	項目no5との関係	
	組合せ	α 係数
2	2-3-5	0.5979
3	2-4-5	0.6595
4	2-5-6	0.6000
5	3-4-5	0.6501
6	4-5-6	0.6114

最小

平成21年10～11月実施

スポーツ指導者の評価基準作成のためのアンケート調査

<調査の目的>

この調査は、スポーツ指導者が自分の指導を振り返ることができるように、平成20年度に作成した観点別評価基準に、改善と精選を加え、さらに使いやすいものを作成することを目的として実施します。

<個人情報保護の保護>

この調査の結果はすべて統計的に処理し、研究成果を公表する場合も個人を特定できる情報として提示されることはありません。

<問い合わせ先>

横浜国立大学教育人間科学部 スポーツ社会学研究室 Tel 045-339-3272

神奈川県立体育センター スポーツ情報室 Tel 0466-81-5611

<調査企画>

横浜国立大学教育人間科学部教授

海老原 修

神奈川県立体育センター所長

安斉 謙一

【回答者の属性】

※空欄に記入するか、番号に○印をつけてください。

問1 年齢（平成21年10月1日現在）

（○は1つだけ）

1. 20～24歳	2. 25～29歳	3. 30～34歳	4. 35～39歳
5. 40～44歳	6. 45～49歳	7. 50～54歳	8. 55～59歳
9. 60～64歳	10. 65～69歳	11. 70歳以上	

問2 性別 (○は1つだけ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問3 あなたが現在、指導を受けている講座（教室）等の主催者について、該当する項目に○印をつけてください。
(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------|--------------------------|
| 1. 総合型地域スポーツクラブ | 2. 湘南とつかYMCAウェルネススポーツクラブ |
|-----------------|--------------------------|

問4 問3の1または2が主催する講座（教室）等で、現在一番多く指導を受けている種目名を1つご記入ください。

種目名：

問5 あなたは、問3で回答した主催者による講座（教室）等で、問4で回答した種目の指導を週に平均何日くらい受けていますか。

(○は1つだけ)

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 1日 | 2. 2日 | 3. 3日 | 4. 4日 |
| 5. 5日 | 6. 6日 | 7. 7日 | |

問6 あなたは、問4で回答した種目の指導を1回あたり平均何時間くらい受けていますか。

(ア) 平日の指導時間	(平均	時間	分)
(イ) 土曜日の指導時間	(平均	時間	分)
(ウ) 日曜日の指導時間	(平均	時間	分)

問7 あなたがスポーツを実施する際に、もっとも重要なことはどれでしょうか。次の3項目のうち重要と
思う順番に1位、2位、3位と番号をつけてください。

(ア) 正々堂々とプレイすること (フェアプレイ)	_____位
(イ) 技能の向上を目指すこと (スキル)	_____位
(ウ) 勝つこと (勝利)	_____位

【スポーツ指導者の評価基準について】

Q1～Q23への回答方法：

問3で回答した主催者による講座（教室）等で、問4で回答した種目の指導を受けている指導者に当てはめて考え、「不十分（1）」「おおむねよい（2）」「よい（3）」のいずれかに○印をつけてください。なお、指導を受ける側からは見えない（わからない）項目や実際の指導現場では該当する状況がない項目については、推測可能であれば回答していただき、推測ができない場合は「わからない（4）」に○印をつけてください。

記入例	不十分	おおむねよい	よい	わからない
	(1)	(2)	(3)	(4)
1 対人的指導力				
項目				
Q1<活動記録> あなたの指導者は、明瞭な活動記録の取り方を理解し、整理・記録している。	不十分 ・活動記録をとっていない。	おおむねよい ・素早く活動記録をとっている。	よい ・活動記録の意義を理解しており、明確な目的のもとに素早く記録をとっている。	わからない (4)
Q2<目標に基づいた評価> あなたの指導者は、目標に基づき、参加者の技能などの到達状況を適切に評価している。	不十分 ・目標に基づいた評価をするには努力を要する。	おおむねよい ・目標に基づき、参加者の技能などの到達状況を評価している。	よい ・目標に基づき、技能などの到達状況について厳格な評価をし、指導に生かしている。	わからない (4)
Q3<指導法の分析> あなたの指導者は、指導法が、どのように有効に作用するか、指導を分析している。	不十分 ・指導法についての理解が不十分である。	おおむねよい ・指導法の基本的なことについて概ね理解し、指導を分析している。	よい ・様々な指導法についてよく理解しており、指導を客観的に分析している。	わからない (4)

2 指導目標・計画

項目	不十分	おおむねよい	よい	わからない
Q4 <指導計画作成> あなたの指導者は、適切な指導計画を作成している。	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画を作成していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 理論を元に指導計画を作成している。 	<ul style="list-style-type: none"> 長期的な展望を持ちながら、理論を元に指導計画を作成している。 	(4)
Q5 <指導計画の修正> あなたの指導者は、参加者の到達状況に応じて指導計画を修正している。	<ul style="list-style-type: none"> 計画を修正していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 状況に応じて修正している。 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しを持ちながら、状況に応じて適切に修正している。 	(4)
Q6 <指導目標の設定> あなたの指導者は、参加者の実態に応じて適切な指導目標を設定している。	<ul style="list-style-type: none"> 指導目標を設定していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の実態をある程度踏まえ、指導目標を設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の実態を的確に把握し、個のニーズにも配慮した指導目標を設定している。 	(4)

3 人間性

項目	不十分	おおむねよい	よい	わからない
Q7 <実践的指導力の向上> あなたの指導者は、実践的指導力の向上を図っている。	<ul style="list-style-type: none"> 自己研鑽の意欲に欠けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修を受講するなど、自己研鑽に励んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導力の向上についてのアンテナを張りながら、自身の指導を客観的に評価し、効果的に改善している。 	(4)
Q8 <期待される人間性> あなたの指導者は、指導者として、期待される人間性を示している。	<ul style="list-style-type: none"> 参加者と自分の立場を区別できない。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導者であることを認識し、行動している。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導者としての良識を備えており、参加者の見本となるよう行動で示している。 	(4)

項目	不十分	おおむねよい	よい	わからない
Q9<言葉のキャッチボールのできる人間関係> あなたの指導者は、参加者と言葉のキャッチボールのできる人間関係を築いている。	・参加者との交流を待とうとしない。 (1)	・参加者との交流を大切にし、概ね良好な関係を築いている。 (2)	・参加者との交流の場を設け、相手の身になって対話し、言葉のキャッチボールのできる人間関係を築いている。 (3)	(4)

4 知識・理解

項目	不十分	おおむねよい	よい	わからない
Q10<指導内容> あなたの指導者は、身に付けさせた技能等についての指導内容を理解している。	・指導内容についての理解が不十分である。 (1)	・何を指導すれば、身に付けさせたい技能等が身につくか、概ね理解している。 (2)	・身につけさせたい技能等と指導内容の関係がよく理解できている。 (3)	(4)
Q11<参加者の基礎条件> あなたの指導者は、参加者の基礎条件（年齢、体調、経験等）について理解している。	・基礎条件による違いを理解できない。 (1)	・基礎条件による違いを概ね理解している。 (2)	・基礎条件による違いを理解し、指導に生かしている。 (3)	(4)
Q12<練習の意味> あなたの指導者は、様々な練習の意味を理解している。	・練習の意味について理解が不足している。 (1)	・基本的な練習の意味を理解している。 (2)	・参加者の実態を考慮し、様々な練習の中から適切な練習を選択している。 (3)	(4)

5 マネジメント

項目	不十分	おおむねよい	よい	わからない
Q13<組織の理解> あなたの指導者は、大会を主催・運営する組織など、関係する組織の意味や活動などについて理解している。	・関係する組織についての理解が不十分である。 (1)	・関係する組織について、ある程度理解している。 (2)	・関係する組織について十分理解しており、必要に応じて協力することがある。 (3)	(4)

項目	不十分	おおむねよい	よい	わからない
Q14<役割分担の理解> あなたの指導者は、技術指導、事故対応、事務連絡等、活動に係わるスタッフの役割分担を理解している。	<ul style="list-style-type: none"> 役割分担についての理解が不十分である。 <p>(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 役割分担について、ある程度理解している。 <p>(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 役割分担を理解した上で、役割の機能性を深める努力をしている。 <p>(3)</p>	<p>(4)</p>

6 要支援者への対応

項目	不十分	おおむねよい	よい	わからない
Q15<特別支援への理解> あなたの指導者は、支援を必要とする参加者（障がい者、技能の習得の遅い者等）について理解している。	<ul style="list-style-type: none"> 知識や理解が不十分である。 <p>(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎知識があり、指導方法について概ね理解している。 <p>(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 知識があり、多様なニーズに応じた指導法を理解している。 <p>(3)</p>	<p>(4)</p>
Q16<要支援者への対応> あなたの指導者は、指導現場の中で特別な支援を要する参加者（障がい者、技能の習得の遅い者等）を、状況に応じて指導している。	<ul style="list-style-type: none"> 支援を要する参加者に状況に応じた指導ができていない。 <p>(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 支援を要する参加者の状況に応じた指導をしている。 <p>(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 支援を要する参加者を理解し、的確に対応している。 <p>(3)</p>	<p>(4)</p>
Q17<いじめ等への対応> あなたの指導者は、いじめ等人間関係の問題を理解し、素早くかつ効果的に対応している。	<ul style="list-style-type: none"> 人間関係の問題に気づかず、また理解できていない。 <p>(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人間関係の問題に気づき、解決に向けて対応している。 <p>(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 問題に素早く気づき、解決のために自主的な方策等を継続的に進めている。 <p>(3)</p>	<p>(4)</p>

7 関わり方

項目	不十分	おおむねよい	よい	わからない
Q18<規律の確立・維持> あなたの指導者は、行動に関する必要な規律を確立し、それを維持している。	・最低限必要な規律が確立されていない。 (1)	・参加者の納得できる規律が確立されている。 (2)	・参加者の納得できる規律が確立されており、それを維持している。 (3)	(4)
Q19<参加者との良好な信頼関係> あなたの指導者は、参加者との多様な関わりを通して、良好な信頼関係をつくっている。	・信頼関係を築けていない。 (1)	・良好な信頼関係をつくるために努力している。 (2)	・多くの場で進んで参加者との関わりをもち、よりよい信頼関係をつくっている。 (3)	(4)

8 創造性

項目	不十分	おおむねよい	よい	わからない
Q20<練習方法や用具の選択・開発> あなたの指導者は、練習方法や用具を選択したり、開発している。	・練習方法や用具の選択、開発をしていない。 (1)	・理論に基づき、練習方法や用具を選択している。 (2)	・情報を多方面から集めた上で、適切な分析をし、練習方法や用具の選択・開発をしている。 (3)	(4)
Q21<イベント等の計画> あなたの指導者は、試合、発表会、遠征、合宿など、参加者の実態に合わせたイベント等を計画している。	・参加者の実態に合わせたイベント等の計画をしていない。 (1)	・参加者の実態に合わせたイベント等を計画している。 (2)	・参加者の実態に合わせたイベント等を計画・実施し、成果を上げている。 (3)	(4)

9 安全管理

項目	不十分	おおむねよい	よい	わからない
Q22<安全性・事故防止への理解> あなたの指導者は、活動における安 全性への配慮について理解し、指導 中の事故防止に努めている。	・事故防止への理解が 不十分である。 (1)	・指導中の事故防止に 努めている。 (2)	・指導の前後も含め、 活動環境など安全を確 保し、事故防止に努め ている。 (3)	(4)
Q23<事故対応等への理解> あなたの指導者は、活動における事 故対応について理解し、すばやくか つ効果的に対応している。	・事故対応への理解が 不十分である。 (1)	・活動における事故対 応について概ね理解 し、対応できる状況に ある。 (2)	・活動における事故対 応について理解し、素 早くかつ効果的に対応 できる状況にある。 (3)	わからない (4)

Q1～Q23の項目以外に、スポーツ指導者が身に付けておくことが望ましい基礎・基本の知識・技能につ
いて、ご意見がありましたらご記入ください。

アンケートに答えていただいた際の感想をご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

因子分析の結果

no	カテゴリー	項目	因子1	因子2	因子3
22	9 安全管理	Q22<安全性・事故防止への理解> あなたの指導者は、活動における安全性への配慮について理解し、指導中の事故防止に努めている。	0.738		
23	9 安全管理	Q23<事故対応等への理解> あなたの指導者は、活動における事故対応について理解し、すばやくかつ効果的に対応している。	0.695		
18	7 関わり方	Q18<規律の確立・維持> あなたの指導者は、行動に関する必要な規律を確立し、それを維持している。	0.626		
19	7 関わり方	Q19<参加者との良好な信頼関係> あなたの指導者は、参加者との多様な関わりを通して、良好な信頼関係をつくっている。	0.614		
21	8 創造性	Q21<イベント等の計画> あなたの指導者は、試合、発表会、遠征、合宿など、参加者の実態に合わせたイベント等を計画している。	0.556		
13	5 マネジメント	Q13<組織の理解> あなたの指導者は、大会を主催・運営する組織など、関係する組織の意味や活動などについて理解している。	0.542	0.450	
14	5 マネジメント	Q14<役割分担の理解> あなたの指導者は、技術指導、事故対応、事務連絡等、活動に係わるスタッフの役割分担を理解している。	0.523		0.425
15	6 要支援者への対応	Q15<特別支援への理解> あなたの指導者は、支援を必要とする参加者(障がい者、技能の習得の遅い者等)について理解している。	0.501		
11	4 知識・理解	Q11<参加者の基礎条件> あなたの指導者は、参加者の基礎条件(年齢、体調、経験等)について理解している。	0.479	0.495	
17	6 要支援者への対応	Q17<いじめ等への対応> あなたの指導者は、いじめ等人間関係の問題を理解し、素早くかつ効果的に対応している。	0.471		0.606
12	4 知識・理解	Q12<練習の意味> あなたの指導者は、様々な練習の意味を理解している。	0.458	0.464	
8	3 人間性	Q8<期待される人間性> あなたの指導者は、指導者として、期待される人間性を示している。	0.461	0.529	
9	3 人間性	Q9<言葉のキャッチボールのできる人間関係> あなたの指導者は、参加者と言葉のキャッチボールのできる人間関係を築いている。	0.453		0.494
20	8 創造性	Q20<練習方法や用具の選択・開発> あなたの指導者は、練習方法や用具を選択したり、開発したりしている。	0.450		0.430
16	6 要支援者への対応	Q16<要支援者への対応> あなたの指導者は、指導現場の中での特別な支援を要する参加者(障がい者、技能の習得の遅い者等)を、状況に応じて指導している。	0.426	0.431	
7	3 人間性	Q7<実践的指導力の向上> あなたの指導者は、実践的指導力の向上を図っている。	0.419	0.549	
2	1 对人的指導力	Q2<目標に基づいた評価> あなたの指導者は、目標に基づき、参加者の技能などの到達状況を適切に評価している。		0.722	
3	1 对人的指導力	Q3<指導法の分析> あなたの指導者は、指導法が、どのように有効に作用するか、指導を分析している。		0.702	
10	4 知識・理解	Q10<指導内容> あなたの指導者は、身に付けさせたい技能等についての指導内容を理解している。		0.551	
6	2 指導目標・計画	Q6<指導目標の設定> あなたの指導者は、参加者の実態に応じて適切な指導目標を設定している。		0.525	0.447
5	2 指導目標・計画	Q5<指導計画の修正> あなたの指導者は、参加者の到達状況に応じて指導計画を修正している。		0.494	0.416
4	2 指導目標・計画	Q4<指導計画作成> あなたの指導者は、適切な指導計画を作成している。			0.772

因子寄与 5.087 4.279 3.193
 因子寄与率 22.117% 18.603% 13.882%
 累積寄与率 22.117% 40.720% 54.602%

※ 主因子法 固有値1以上の値についてバリマックス回転
 ※ 因子負荷0.4以上のみ表示

現no	現カテゴリー	現項目	因子1	因子2	因子3
2	1 对人的指導力	Q2<目標に基づいた評価> あなたの指導者は、目標に基づき、参加者の技能などの到達状況を適切に評価している。		0.722	
3	1 对人的指導力	Q3<指導法の分析> あなたの指導者は、指導法が、どのように有効に作用するか、指導を分析している。		0.702	
4	2 指導目標・計画	Q4<指導計画作成> あなたの指導者は、適切な指導計画を作成している。			0.772
5	2 指導目標・計画	Q5<指導計画の修正> あなたの指導者は、参加者の到達状況に応じて指導計画を修正している。		0.494	0.416
6	2 指導目標・計画	Q6<指導目標の設定> あなたの指導者は、参加者の実態に応じて適切な指導目標を設定している。		0.525	0.447
7	3 人間性	Q7<実践的指導力の向上> あなたの指導者は、実践的指導力の向上を図っている。	0.419	0.549	
8	3 人間性	Q8<期待される人間性> あなたの指導者は、指導者として、期待される人間性を示している。	0.461	0.529	
10	4 知識・理解	Q10<指導内容> あなたの指導者は、身に付けさせたい技能等についての指導内容を理解している。		0.551	
12	4 知識・理解	Q12<練習の意味> あなたの指導者は、様々な練習の意味を理解している。	0.458	0.464	
13	5 マネジメント	Q13<組織の理解> あなたの指導者は、大会を主催・運営する組織など、関係する組織の意味や活動などについて理解している。	0.542	0.450	
14	5 マネジメント	Q14<役割分担の理解> あなたの指導者は、技術指導、事故対応、事務連絡等、活動に係わるスタッフの役割分担を理解している。	0.523		0.425
18	7 関わり方	Q18<規律の確立・維持> あなたの指導者は、行動に関する必要な規律を確立し、それを維持している。	0.626		
15	6 要支援者への対応	Q15<特別支援への理解> あなたの指導者は、支援を必要とする参加者(障がい者、技能の習得の遅い者等)について理解している。	0.501		
16	6 要支援者への対応	Q16<要支援者への対応> あなたの指導者は、指導現場の中での特別な支援を要する参加者(障がい者、技能の習得の遅い者等)を、状況に応じて指導している。	0.426	0.431	
17	6 要支援者への対応	Q17<いじめ等への対応> あなたの指導者は、いじめ等人間関係の問題を理解し、素早くかつ効果的に対応している。	0.471		0.606
11	4 知識・理解	Q11<参加者の基礎条件> あなたの指導者は、参加者の基礎条件(年齢、体調、経験等)について理解している。	0.479	0.495	
9	3 人間性	Q9<言葉のキャッチボールのできる人間関係> あなたの指導者は、参加者と言葉のキャッチボールのできる人間関係を築いている。	0.453		0.494
19	7 関わり方	Q19<参加者との良好な信頼関係> あなたの指導者は、参加者との多様な関わりを通して、良好な信頼関係を築いている。	0.614		
20	8 創造性	Q20<練習方法や用具の選択・開発> あなたの指導者は、練習方法や用具を選択したり、開発したりしている。	0.450		0.430
21	8 創造性	Q21<イベント等の計画> あなたの指導者は、試合、発表会、遠征、合宿など、参加者の実態に合わせたイベント等を計画している。	0.556		
22	9 安全管理	Q22<安全性・事故防止への理解> あなたの指導者は、活動における安全性への配慮について理解し、指導中の事故防止に努めている。	0.738		
23	9 安全管理	Q23<事故対応等への理解> あなたの指導者は、活動における事故対応について理解し、すばやくかつ効果的に対応している。	0.695		
1	1 对人的指導力	Q1<活動記録> あなたの指導者は、明瞭な活動記録の取り方を理解し、整理・記録している。			



新no	新タイトル	新項目	不十分	おおむねよい	よい
1	評価・分析	指導対象者の到達状況を把握し、自分の指導を振り返っている。	指導対象者の技能等の到達状況の把握や指導の反省が不十分である。	指導対象者の技能等の到達状況を把握し、自分の指導を振り返っている。	指導対象者の技能等の到達状況などから、自分の指導を分析し、指導を改善している。
2	計画性	指導目標(到達目標)を設定し、指導計画を作成している。	指導目標(到達目標)を設定せず、指導に計画性がない。	指導目標(到達目標)を設定し、指導計画を作成している。	状況に応じて、指導目標(到達目標)や指導計画を適宜修正している。
3	プロ意識	情報収集や研修への参加などにより指導力の向上を図っている。	情報収集や研修への参加などを行わず、指導力の向上への意識が低い。	情報収集や研修への参加などにより指導力の向上を図っている。	情報収集や研修への参加などによる指導力の向上により、指導対象者からも信頼されている。
4	技能・戦術、体力	技能・戦術、及び体力について科学的に理解している。	技能・戦術、及び体力の理解が不十分である。	技能・戦術、及び体力について科学的に理解している。	技能・戦術、及び体力について科学的かつ系統的に理解し、指導に活かしている。
5	マネジメント	役割分担や規律の確立、環境整備など、必要なマネジメントを行っている。	役割分担や規律の確立、環境整備など、必要なマネジメントが不十分である。	役割分担や規律の確立、環境整備など、必要なマネジメントを行っている。	外部との連携を図るなど、コーディネートの視点も持ちながら、効果的なマネジメントを行っている。
6	特別支援	支援を必要とする指導対象者(障害者、いじめられている者、技能の習得の遅い者など)について理解し、配慮ができる。	支援を必要とする指導対象者(障害者、いじめられている者、技能の習得の遅い者など)についての理解が不十分である。	支援を必要とする指導対象者(障害者、いじめられている者、技能の習得の遅い者など)について理解し、配慮ができる。	支援を必要とする指導対象者(障害者、いじめられている者、技能の習得の遅い者など)に、積極的に関与し、効果的かつ効率的な支援を行うことができる。
7	コミュニケーション	指導対象者の基礎条件(ニーズ、年齢、体力、経験など)を理解した上で、適切に接している。	指導対象者の基礎条件(ニーズ、年齢、体力、経験など)を理解していない。	指導対象者の基礎条件(ニーズ、年齢、体力、経験など)を理解した上で、適切に接している。	指導対象者の基礎条件(ニーズ、年齢、体力、経験など)を理解した上で、適切に接し、良好な信頼関係を築いている。
8	教授能力	指導のレパートリーがいくつかあり、指導対象者や指導環境に応じた指導ができる。	前例踏襲の指導ばかり行うなど、指導のレパートリーが少ない。	指導のレパートリーがいくつかあり、指導対象者や指導環境に応じた指導ができる。	目標となるイベントを設けたり、状況の変化に応じて練習方法を急ぎ変更するなど、指導のレパートリーが多く、百戦錬磨である。
9	安全管理・危機管理	指導対象者の健康面・安全面に配慮するとともに、事故対応についても考えている。	当該スポーツで起こりえる事故や障害及び事故対応などを理解していない。	指導対象者の健康面・安全面に配慮するとともに、事故対応についても考えている。	活動記録を取るなど、日頃から事故防止や障害予防に配慮するとともに、事故が起きた場合の対策も十分できている。

<理由>

・関連する文献等
National Standards for Sport Coaches, 2nd Edition
・体育センター中間発表会での意見
「スポーツマンシップやマナーについての項目がなぜ削除されたのか」



<追加検討項目>

10	倫理・哲学	スポーツマンシップやマナー及びスポーツの効果や魅力について理解し、適宜指導している。	スポーツマンシップやマナー及びスポーツの効果や魅力について、理解が不十分である。	スポーツマンシップやマナー及びスポーツの効果や魅力について理解し、適宜指導している。	スポーツマンシップやマナー及びスポーツの効果や魅力について理解し、適宜指導するとともに、指導者の立ち振る舞いなどによる間接的な指導も実現している。
----	-------	--	--	--	---

本研究			
横浜スタンダード 小学校教員としての資質 ・能力の観点別評価基	第1段階	第2段階	第3段階
国立大学法人 横浜国立大学 教育人間科学部			(案)
2007年度	2009年3月	2009年10月	資料6参照
50項目	50項目	23項目	2010年2月
8領域	8領域	9領域	10項目
1 基本的素養	1 基本的素養	1 対人的指導力	1 評価・分析
2 知識・理解	2 知識・理解	2 指導目標・計画	2 計画性
3 指導1目標・計画	3 指導1目標・計画	3 人間性	3 プロ意識
4 指導2実演授業	4 指導2実施	4 知識・理解	4 技能・戦術、体力
5 指導3評価	5 指導3評価	5 マネジメント	5 マネジメント
6 指導4授業観察・分析	6 指導4観察・分析	6 要支援者への対応	6 特別支援
7 学級経営	7 指導現場の経営・運営	7 関わり方	7 コミュニケーション
8 学校組織の理解と運営への協力	8 組織理解と運営への協力	8 創造性	8 教授能力
		9 安全管理	9 安全管理・危機管理
			10 倫理・哲学

関係する文献より			
National Standards for Sport Coaches, 2nd Edition National Association for Sport and Physical Education(全米スポーツ体育協会) (2010年2月現在ホームページで公開中) http://www.aahperd.org/naspe/standards/nationalStandards/SportCoaches.cfm	スポーツ指導者のコンピテンシーの構造 笹山晋寛・中西純司 福岡教育大学教育学部平成10年度卒業論文報告書 1998年度 地域スポーツ指導者 商業スポーツ施設指導者 因子 コンピテンシー	首都圏の地域スポーツ指導者に求められる職務遂行能力に関する研究 富田幸博 日本体育大学紀要35巻2号(2006)159-172 2006年 首都圏の地域スポーツ指導者 因子 コンピテンシー	Instructor Competencies James D. Klein (Alizona State University) J. Michael Spector (Florida State University) Barbara Grabowski (Pennsylvania State University) Ileana de la Teja (LICEF Research Center, Tele-universite) 2003年 プロフェッショナルとしての基礎
Domain 領域	コンピテンシー	コンピテンシー	プロフェッショナルとしての基礎
1 Philosophy and Ethics 哲学と倫理	1 健康・体力科学に関する知識・能力	1 社会的動向・情報収集分析能力	1 効果的なコミュニケーションを行う。
2 Safety and Injury Prevention 安全と外傷予防	2 運動者理解能力	2 身体・健康科学に関する知識	2 専門分野の知識やスキルを常に磨いておく。
3 Physical Conditioning フィジカルコンディショニング	3 スポーツ経営能力	3 スポーツルール・リスク対応能力	3 規定の倫理や法を順守する。
4 Growth and Development 成長	4 情報収集・活用能力	4 スポーツ栄養学・医学・内科学に関する知識・能力	4 プロフェッショナルとしての信用を確立する。
5 Teaching and Communication 教授とコミュニケーション	5 パブリックとの関係づくり能力	5 スポーツ事業の企画・運営能力	5 コミュニケーション能力
6 Sport Skills and Tactics スポーツ技能と戦術	6 指導理論・実技能力	6 コミュニケーション能力	5 インストラクションと方法と教材を企画準備する。
7 Organization and Administration 組織と管理	7 スポーツ文化に関する知識・能力	7 スポーツ行政に関する知識・能力	6 インストラクションに必要な具体的な準備をする。
8 Evaluation 評価	8 状況適応能力	8 安全指導に関する知識	7 受講者が意欲的に、集中して学べるように働きかける。
	人間的な側面 指導哲学(指導感) 人間関係因子 人間性因子	人間的な側面 ホスピタリティ因子 表現因子	8 プレゼンテーションを効果的に行う。
	※ コンピテンシー: 高業績者の行動特性		9 ファシリテーションを効果的に行う。
		人的要素 態度的要素 儀礼的要素 人格的要素	10 タイミングよく的確に質問をする。
			11 明確な説明とフィードバックを与える。
			12 学んだ知識やスキルが持続するように働きかける。
			13 学んだ知識やスキルが実際に使えるように働きかける。
			14 メディアやテクノロジーを使って学習効果を高める。
			評価
			15 学習成果とその実用性を評価する。
			16 インストラクションの効果を評価する。
			マネジメント
			17 学習効率と学んだことの実践を促進する環境を維持する。
			18 適切なテクノロジーを使って、インストラクションのプロセスを管理する。

現no	現カテゴリ	現項目	因子1	因子2	因子3
2	1 対人的指導力	Q2<目標に基づいた評価> あなたの指導者は、目標に基づき、参加者の技能などの到達状況を適切に評価している。		0.722	
3	1 対人的指導力	Q3<指導法の分析> あなたの指導者は、指導法が、どのように有効に作用するか、指導を分析している。		0.702	
4	2 指導目標・計画	Q4<指導計画作成> あなたの指導者は、適切な指導計画を作成している。			0.772
5	2 指導目標・計画	Q5<指導計画の修正> あなたの指導者は、参加者の到達状況に応じて指導計画を修正している。		0.494	0.416
6	2 指導目標・計画	Q6<指導目標の設定> あなたの指導者は、参加者の実態に応じて適切な指導目標を設定している。		0.525	0.447
7	3 人間性	Q7<実践的指導力の向上> あなたの指導者は、実践的指導力の向上を図っている。	0.419	0.549	
8	3 人間性	Q8<期待される人間性> あなたの指導者は、指導者として、期待される人間性を示している。	0.461	0.529	
10	4 知識・理解	Q10<指導内容> あなたの指導者は、身に付けさせたい技能等についての指導内容を理解している。		0.551	
12	4 知識・理解	Q12<練習の意味> あなたの指導者は、様々な練習の意味を理解している。	0.458	0.464	
13	5 マネジメント	Q13<組織の理解> あなたの指導者は、大会を主催・運営する組織など、関係する組織の意味や活動などについて理解している。	0.542	0.450	
14	5 マネジメント	Q14<役割分担の理解> あなたの指導者は、技術指導、事故対応、事務連絡等、活動に係わるスタッフの役割分担を理解している。	0.523		0.425
18	7 関わり方	Q18<規律の確立・維持> あなたの指導者は、行動に関する必要な規律を確立し、それを維持している。	0.626		
15	6 要支援者への対応	Q15<特別支援への理解> あなたの指導者は、支援を必要とする参加者(障がい者、技能の習得の遅い者等)について理解している。	0.501		
16	6 要支援者への対応	Q16<要支援者への対応> あなたの指導者は、指導現場の中での特別な支援を要する参加者(障がい者、技能の習得の遅い者等)を、状況に応じて指導している。	0.426	0.431	
17	6 要支援者への対応	Q17<いじめ等への対応> あなたの指導者は、いじめ等人間関係の問題を理解し、素早くかつ効果的に対応している。	0.471		0.606
11	4 知識・理解	Q11<参加者の基礎条件> あなたの指導者は、参加者の基礎条件(年齢、体調、経験等)について理解している。	0.479	0.495	
9	3 人間性	Q9<言葉のキャッチボールのできる人間関係> あなたの指導者は、参加者と言葉のキャッチボールのできる人間関係を築いている。	0.453		0.494
19	7 関わり方	Q19<参加者との良好な信頼関係> あなたの指導者は、参加者との多様な関わりを通して、良好な信頼関係を築いている。	0.614		
20	8 創造性	Q20<練習方法や用具の選択・開発> あなたの指導者は、練習方法や用具を選択したり、開発したりしている。	0.450		0.430
21	8 創造性	Q21<イベント等の計画> あなたの指導者は、試合、発表会、遠征、合宿など、参加者の実態に合わせたイベント等を計画している。	0.556		
22	9 安全管理	Q22<安全性・事故防止への理解> あなたの指導者は、活動における安全性への配慮について理解し、指導中の事故防止に努めている。	0.738		
23	9 安全管理	Q23<事故対応等への理解> あなたの指導者は、活動における事故対応について理解し、すばやくかつ効果的に対応している。	0.695		
1	1 対人的指導力	Q1<活動記録> あなたの指導者は、明瞭な活動記録の取り方を理解し、整理・記録している。			



新no	新タイトル	新項目	不十分	おおむねよい	よい
1	評価 evaluation	私はプレイヤーの到達状況を把握し、自分の指導を振り返っている。 I understand player's attainment situation, and evaluate my teaching.	プレイヤーの到達状況の把握に苦慮しており、自分の指導の振り返りが十分にできていない。	プレイヤーの到達状況を把握し、自分の指導を振り返っている。	プレイヤーの到達状況を十分に把握できており、指導の評価をその後の指導に活かすことができている。
2	計画 planning	私はプレイヤーの到達目標を設定し、指導計画を作成している。 I set player's attainment target, and make the instructional planning.	プレイヤーの到達目標についてあまり考えず、指導が計画的でない。	プレイヤーの到達目標を設定し、指導計画を作成している。	状況に応じてプレイヤーの到達目標を設定・変更し、指導計画を改善できる。
3	研鑽 study	私は指導力の向上のために、研鑽を積んでいる。 I always pile up study as the instructor.	指導力の向上のための、研鑽の機会や意識に乏しいと感じている。	日頃から、指導力の向上のために研鑽を積んでいる。	日頃から指導力の向上のために研鑽を積んでおり、指導に活かしている。
4	技術と戦術 sports skills and tactics	私は技術や戦術について、系統的に理解している。 I systematically understand sports skills and tactics.	技術や戦術の順序立てた成り立ちまでは、十分に理解できていない。	技術や戦術の順序立てた成り立ちについて理解している。	技術や戦術を順序立てて身に付けさせることができる。
5	組織と運営 organization and administration	私は組織やその運営を理解している。 I understand the organization and the administration.	組織の実態が明確に把握できず、運営に支障をきたしている。	組織の実態の把握や運営方法について理解している。	組織の実態が十分に把握できており、運営も順調である。
6	コミュニケーション communication	私はプレイヤーと意志の疎通を図っている。 I communicate with the player.	プレイヤーと意思の疎通がうまくできていない。	プレイヤーの状況に応じて、意志の疎通を図っている。	プレイヤーと良好な信頼関係ができています。
7	指導方法 teaching method	私は状況に応じた指導方法を選択できる。 I can select the instructional method corresponding to the situation.	状況に応じた指導方法を選択できていない。	状況に応じた指導方法を選択することができる。	状況に応じた指導方法を数多く身に付けており、工夫・改善もできる。
8	安全管理 safety management	私はプレイヤーの健康と安全に留意し、事故対応についても理解し、訓練を行っている。 I pay attention to player's health and safety, and I understand and am training the behavior when accident happens.	プレイヤーの健康や安全管理、事故対応について不安がある。	常にプレイヤーの健康や安全管理に留意するとともに、事故対応について理解し、日頃から訓練を行っている。	常にプレイヤーの健康管理と安全確保について、具体的に指導し、事故に対する万全の対策をとることができる。

<理由>

・関連する文献等
National Standards for Sport Coaches, 2nd Edition「Philosophy and Ethics」
・体育センター中間発表会での意見
「スポーツマンシップやマナーについての項目がなぜ削除されたのか」



9	哲学とモラル philosophy and ethics	私は指導哲学とモラルを兼ね備えている。 I have both the philosophy of teaching and ethics.	しっかりとした指導者としての哲学がなく、モラルから逸脱してしまうことがある。	指導者としての哲学を持ち、モラルを身に付けている。	指導者としての哲学やモラルがプレイヤーに理解され、信頼されている。
---	---------------------------------	---	--	---------------------------	-----------------------------------

<理由>

・関連する文献等
National Standards for Sport Coaches, 2nd Edition「Physical Conditioning」
スポーツ指導者のコンピテンシーの構造「運動生化学に関する知識・能力」
首都圏の地域スポーツ指導者に求められる職務遂行能力に関する研究
「身体・健康科学に関する知識」



10	スポーツ科学 sports science	私はスポーツ科学の基礎知識を身につけている。 I have the basic knowledge of the science of physical fitness.	指導に必要なスポーツ科学に関する基礎知識について、十分に身に付けていない。	指導に必要なスポーツ科学の基礎知識を身に付けている。	指導に有効なスポーツ科学に関する知識の活用方法を知っている。
----	--------------------------	--	---------------------------------------	----------------------------	--------------------------------

スポーツ指導者のための振り返りシート「かながわスタンダード」

No.	タイトル	項目	不十分	おおむねよい	よい
1	哲学とモラル Philosophy and morality	私は指導哲学とモラルを兼ね備えている。 I have both the philosophy of teaching and morality.	指導者としての哲学がなく、モラルから逸脱してしまうことがある。	指導者としての哲学を持ち、モラルを身に付けている。	指導者としての哲学やモラルがプレーヤーに理解されている。
2	安全管理 Safety management	私は受講者の健康と安全に留意するとともに、事故対応についても理解し、定期的に訓練を行っている。 I pay attention to the health and safety of students. I understand the procedures of accident/injury management through regular training.	受講者の健康や安全管理、事故対応について不安がある。	受講者の健康や安全管理に留意するとともに、事故対応について理解し、定期的に訓練を行っている。	受講者の健康管理と安全確保について、具体的に指導し、事故に対する万全の対策をとることができる。
3	スポーツ科学的知見 Sports science	私はスポーツ科学の基礎知識を身につけている。 I have basic knowledge of sports science.	指導に必要なスポーツ科学に関する基礎知識について、十分に身に付けていない。	指導に必要なスポーツ科学の基礎知識を身に付けている。	指導に有効なスポーツ科学の知識を指導に活かしている。
4	計画 Planning	私は受講者の到達目標を設定し、指導計画を作成している。 I set students' attainment targets, and make plans to reach the targets.	受講者の到達目標についてあまり考えず、指導が計画的でない。	受講者の到達目標を設定し、指導計画を作成している。	到達状況に応じて受講者の到達目標を変更し、指導計画を適切に改善できる。
5	コミュニケーション Communication	私は受講者との意志の疎通を図っている。 I make efforts to communicate with players.	受講者との意思の疎通がうまくできていない。	受講者との意志の疎通を図っている。	受講者と良好な信頼関係ができています。
6	教授方法 Teaching method	私は状況に応じた指導方法を選択できる。 I can select the appropriate teaching methods corresponding to the situation.	状況に応じた教授方法を選択できていない。	状況に応じた教授方法を選択することができる。	状況に応じた教授方法を数多く身に付けており、工夫・改善もできる。
7	技術 Sports skills	私は技術について、系統的に理解している。 I systematically understand sports skills.	技術の理解が浅く、系統的に理解できていない。	技術について、系統的に理解している。	技術を系統的に身に付けさせることができる。
8	組織と運営 Organization and administration	私は組織やその運営を把握している。 I understand matter relating to the organization and administration of sports programs.	組織の実態が明確に把握できず、運営に支障をきたしている。	組織やその運営を把握している。	組織の実態が十分に把握できており、運営も順調である。
9	評価 Evaluation	私はプレーヤーの到達状況を把握し、自分の指導を振り返っている。 I assess players' attainment situation, and I self-evaluate my teaching performance.	プレーヤーの到達状況の把握が不十分であり、自分の指導の振り返りが有効に機能していない。	プレーヤーの到達状況を把握し、自分の指導を振り返っている。	プレーヤーの到達状況を十分に把握できており、指導の評価をその後の指導に活かすことができている。
10	研鑽 Self-renewal	私は指導力の向上のために、研鑽を積んでいる。 I am dedicated to increasing my skills and knowledge as instructor.	指導力の向上のための、研鑽の機会や意識に乏しいと感じている。	指導力の向上のために研鑽を積んでいる。	指導力の向上のために研鑽を積んでおり、指導に活かしている。

指導者

指導者の自己評価の因子分析(9因子抽出)を参考に作成した項目

NO	カテゴリ	項no	項目
1	対人的指導力	1	活動記録
		2	目標に基づいた評価
		3	指導法の分析
2	指導目標・計画	4	指導計画作成
		5	指導計画の修正
		6	指導目標の設定
3	人間性	7	実践的指導力の向上
		8	期待される人間性
		9	言葉のキャッチボールのできる人間関係
4	知識・理解	10	指導内容
		11	参加者の基礎条件
		12	練習の意味
5	マネジメント	13	組織の理解
		14	役割分担の理解
6	要支援者への対応	15	特別支援への理解
		16	要支援者への対応
7	関わり方	17	いじめ等への対応
		18	規律の確立・維持
		19	参加者との良好な信頼関係
8	創造性	20	練習方法や用具の選択・開発
		21	イベント等の計画
9	安全管理	22	安全性・事故防止への理解
		23	事故対応等への理解

※17「いじめ等への対応」は、9つの因子すべてにおいて、因子負荷が0.4未満であったが、ワーキングの意見により追加した項目

指導を受けている人(全体)

指導を受けている人(全体)の指導者評価の因子分析

因子1	因子2	因子3
	0.722	
	0.702	
		0.772
	0.494	0.416
	0.525	0.447
0.419	0.549	
0.461	0.529	
0.453		0.494
	0.551	
0.479	0.495	
0.458	0.464	
0.542	0.450	
0.523		0.425
0.501		
0.426	0.431	
0.471		0.606
0.626		
0.614		
0.450		0.430
0.556		
0.738		
0.695		

因子寄与 5.087 4.279 3.193
 因子寄与率 22.12% 18.60% 13.88%
 累積寄与率 22.12% 40.72% 54.60%

指導を受けている人(フェアプレイ重視)

指導を受けている人(フェアプレイ重視)の指導者評価の因子分析

因子1	因子2	因子3	因子4	因子5
0.552				
	0.706			
	0.680			
0.576				
0.602				
0.538				
				0.677
	0.529			0.473
0.600				0.402
0.495		0.514		
		0.478	0.694	
	0.511			
	0.715			
			0.416	
			0.532	
	0.524			
0.812				
0.644				
0.527	0.445			
0.499				
	0.540			
	0.459		0.460	
0.426			0.629	

因子寄与 4.619 3.137 2.537 2.274 1.615
 因子寄与率 20.08% 13.64% 11.03% 9.89% 7.02%
 累積寄与率 20.08% 33.72% 44.75% 54.64% 61.66%

指導を受けている人(スキル重視)

指導を受けている人(スキル重視)の指導者評価の因子分析

因子1	因子2	因子3	因子4	因子5
	0.461			
	0.801			
	0.736			
	0.417	0.826		
	0.545			
	0.508	0.432		
0.630				
0.567				
0.533		0.514		
0.810				
0.647				
0.544				
0.473				
0.516		0.538		
0.659				
0.435		0.532		
		0.457	0.500	
			0.848	
0.494				
			0.495	
			0.645	
				0.827
				0.734

因子寄与 4.626 3.09 2.733 2.536 2.421
 因子寄与率 20.11% 13.44% 11.88% 11.02% 10.53%
 累積寄与率 20.11% 33.55% 45.43% 56.46% 66.98%

※ 主因子法 固有値1以上の値についてバリマックス回転 因子負荷0.4以上のみ表示

評価基準に関する指導を受けている人の自由意見
「かながわスタンダード」のどの項目（No.）にあてはまるか確認しました

資料11

no.	意見	評価基準のNo.			
1	今から8年前のこと、地域で老人の体力づくりの体操があるとの事で（80歳の母）に参加を勧めました。行ったところ、高齢の為全く相手にされなかったとがっかりして帰ってきました。現在私は足が悪く皆様と同じにできないことありますが指導者の方が無理しないで良いと言われますので気楽に楽しく参加しています。高齢者も体力づくりには関心を持っていますので近くで優しく指導して頂けたらと思います。	2	3	5	6
2	指導内容が毎週同じだとあきるので、変化のあるカリキュラムを考えて欲しいと思います。	4	6		
3	各個人の過去のケガ等を理解した上での指導。	2	6		
4	参加人数の把握の上で区分けを実行することが不足している（健康体操）。人数的に半端であればもっと積極的に指導者自身が区別に加わるべき	6	8		
5	継続的に講習、研修を受け自身をリフレッシュしていること。技術、安全、人間関係等。	2	5	7	10
6	素早い事務連絡をして欲しい。	8			
7	それぞれの種目の専門的な知識・技能を身に付けた人が指導して欲しいと思います。（たまに専門外の種目を指導される人がいるので少し心配）	3	7		
8	最新の練習方法をどんどん取り入れて欲しい。	6	10		
9	知識も必要ですが、実践して見せて欲しい。	3	7		
10	笑顔で指導する	5			
11	各々、個人がどこにつまづいているかを素早く確実にキャッチし指導して欲しいのですが。	7	9		
12	参加者の技能実態を把握して、個々人に合った指導をする	6	9		
13	一般教養（特に歴史的知識）は高齢者との会話に役立つものと思います。	5			
14	受講者に合う指導をしていただきたい。	6	9		
15	こちらの希望を聞く場があるともっと良いと思う。以前のクラスは物足りなかった。	5			
16	スポーツの種類によって何時間前まで食事をしたほうがいいのか何をとったらいいのかどんな布地がのぞましいとか教えて欲しい。	2	3		
17	上記の指導ではありませんが、アクアウォーキングエクササイズ等の場合、その運動の目的と意識すべき身体の部位について教えてくださる指導者の下で運動するのと、指示通り動くのとでは参加しがいい（やりがい）がずいぶん違います。	3	6	7	
18	（練習方法について、率直な意見を述べます。）初心者や習得のゆっくりの方だけにかためないで、上級者中級者の中に初心者を均等に組み込めなければ、指導者の方の負担も軽くなり、全体のコミュニケーションも計れると思います。（レベルアップも）	5	6	8	
19	目的を持った指導が必要ではないでしょうか。	4			
20	適切な指導者を選択するには相応の人材の紹介や予算等の手当てが必要と思われる。場所等の提供も含め考慮を望みたい。	8			

no.	意見	評価基準のNo.			
21	指導者の人数の増加が望まれる。公共の施設が少ない。場所が狭いを解消したい。	8			
22	特にありませんが、技術面に関して自分がもう少し頑張れば達成できそうな目標を持てるような練習プランを常に用意していただけるとありがたいです。	4	6	7	
23	模範演技がきちんとできる指導者（理論と実技）	3	7		
24	私は当スポーツクラブで体操（2つ）、バドミントンを受講しています。年配者が多いのできっちりとした計画よりも楽しく今ある健康を維持できることを目的として来ていらっしやると思っています。指導者は明るく楽しく声かけをして一人でも多くの方が気軽に無理なく参加できることが良いと思います。当スポーツクラブは本当に良いと思っています。	5	6		
25	アンケートの中に人間性がありましたが、指導員と私たちとは年の差があります。指導員も年をとった人を教えるのは大変ですが、欠点とか性格をそのまま指導中に言うてしまうことはいかなることだと思います。ショックを与えてしまうのではないのでしょうか。私も言われたものです。いつまでも頭の隅に残っています。	1	5		
26	いかに会員やスポーツ仲間を楽しく笑顔でその運動に取り組んでいけるかを常に指導者は考え行動していかなければならないと思います。技能・技術は後からいくらでもついてくるものですが、他の者に対して、何ができるか等を常に考え行動することだと思います。	1	7	9	
27	「体」についての全て。特に食事、栄養面での健康管理について。	2	3		
28	言動の一貫性	1			
29	いまだに昔のやり方をしている人がいるので、その時代や今の子どもだったり、合わせていかないと良いスポーツにはなっていないと思います。	6	10		
30	行動全般及び身体的安全についての勉強等。	2	6	10	

No.	タイトル	該当数
1	哲学とモラル	3
2	安全管理	6
3	スポーツ科学的知見	7
4	計画	3
5	コミュニケーション	8
6	教授方法	13
7	技術	8
8	組織と運営	5
9	評価	4
10	研鑽	4